

MIYU



GUIDE

2023

宮城大学 大学案内 2023

Contents

MIYU TOPICS

Mission, Philosophy, History

President's Message

Freshman Core Classes

Department Studies

School of Nursing

Nursing

School of Project Design

Business Planning

Regional Sciences

Value-Creating Design

School of Food Industrial Sciences

Integrative Studies of Plant
and Animal Production

Food Science and Business

Global Exchange

Graduate School

MIYU CAMPUSES

ONLINE OPEN CAMPUS

Routes to Campuses



かつてない激動の世界情勢の中、私たちは今、大きな岐路に立たされています。
これからの社会はどうあるべきか。一人ひとりがその答えを探し、行動していく時代。
高度な専門知識を有するだけでなく、多分野の知を掛け合わせ第三の道を見いだす創造性、
変化に対応できる柔軟な思考を持ち合わせた総合的な人間力が求められています。
宮城大学には、看護、事業構想、食産業、それぞれの分野での実践的なプログラムと
領域を横断した広い学びの機会、挑戦の場が豊富に用意されています。
地域と関わり、世界と渡り合いながら社会変革を担う人材に育っていくことを全力で支援します。
混迷の時代に果敢に立ち向かい、ともに明るい未来を切り拓いていきましょう。

Contents

03	MYU TOPICS	18	看護学群	47	国際交流・海外ネットワーク
11	建学の精神・大学の理念・沿革	19	看護学類	48	大学院
12	学長メッセージ	24	事業構想学群		データ(学生数/入学金・学費・奨学金)
13	フレッシュマンコア	25	事業プランニング学類	49	キャンパス紹介
17	学群・学類での学び	29	地域創生学類	50	オンラインオープンキャンパス・アクセス
		33	価値創造デザイン学類		
		38	食産業学群		
		39	生物生産学類		
		43	フードマネジメント学類		

MYU TOPICS

2021-2022 / MIYAGI UNIVERSITY TOPICS みなさんにお届けしたい、宮城大学の旬な話題をご紹介します。



TOPICS 01

東北にデザインの拠点を、先進メディア表現による展示を開催、デザイン研究棟

デザインを通して、新しい価値をどう生み出していくか。日々変化する社会環境を観察し、多様な課題を解決へと導く論理的思考力と表現力、“デザイン思考”は、宮城大学で学ぶ全ての学生に必要な考え方です。教員と学生が共にデザイン思考を育む環境として大和キャンパスにデザイン研究棟がオープン。2021年度はビジュアルデザインスタジオ WOW と連携して、東北地方の“信仰や祈り”をテーマとした先進メディア表現による企画

展示「いのりのかたち」、東北の郷土玩具こけしをモチーフとした映像・インスタレーションによる実験的な展示「STUDY PROJECT 'KOKESHI」などを開催しました。「デザインスタディセンター」では、学群の枠を超えた知の接続／地域社会との継続的な共創／学外の先進的な知見の獲得を目指し、東北の新たなデザインの拠点として、企業や学生・教員による実験的なプロジェクトが続々と展開されていきます。

TOPICS 02

地域の人びとと共に 課題解決ができる人材の育成を コミュニティ・プランナープログラム

地域本来の良さを活かしたコミュニティづくりの技能を修得するため、地域の現場を実際に触れ、見て・聞き・体験して学修するコミュニティ・プランナープログラム。2021年度は、栗駒山麓ジオパークビジターセンターと連携した写真撮影イベントや、みちのく潮風トレイル・名取市区间におけるモニターツアー、震災復興を経た七ヶ浜町で「いつでもビーチクリーン」体験、仙台南ニュータウン町内会・萩の台町内会で高齢者を対象としたスマホ体験会など、地域課題に積極的に取り組む企画が実施されました。また、昨年度「アルファ米を使ったレシピ集の制作」に取り組んだ学生たちが仙台若者アワード 2021 で優秀賞を受賞、主体的な取り組みが評価されています。



MYU TOPICS
【宮城大学の話題】

TOPICS 03

地域と開発途上国を繋げる 宮城大学× JICA 連携 グローバル・プログラムを開始

地域創生の対象は、国内に留まらず海外にも広がっています。東日本大震災の被災地では、青年海外協力隊経験者が活躍しました。彼ら、彼女らの行動力・問題解決力・コミュニケーション力は、開発途上国という日常の日本とは全く違う状況の中で活動してきた経験が活かされています。開発途上国での地域づくり、人づくりを日本の地域づくり、人づくりに還元し、循環していく。学生にとって将来のチャレンジに繋がるようなユニークなプログラムとして、宮城大学と JICA 東北が連携し「グローバル・プログラム」を開始しました。このプログラムは、地域（ローカル）と開発途上国（グローバル）を繋げて学修・交流・協働し“グローバル人材”を育成します。



写真上 Photo: JICA/Kosuke Okahara 写真右下 Photo: JICA
写真はイメージです。

TOPICS 04

宮城県の農業生産法人で
最先端のスマート農業を体験
「スマート農業実証」プロジェクト

スマート農業への移行は農業の発展に必要な一歩です。食産学群では、宮城県の農業生産法人と共働し、学生が農業の現場で進化するテクノロジーを体験するプロジェクトを実施しています。「イグナルファーム大郷」では、太陽光型植物工場でミニトマトを栽培する環境制御の仕組みや、養液栽培技術、高速自動選果機の稼働状況などを体験。「宮城フラワーパートナーズ」では、作業の省力化と効率化を図るため自動で走行する台車（AGV）と作業者の能率が数値化できる作業管理システムなど、これまでの農業では想像もつかなかったテクノロジーが活用されている現場で、多くの気づきを得られる体験をしました。



TOPICS 05

クローバーウニの実用化と
地域の水産業の発展に向けて
水産研究・教育機構と連携

全国の沿岸部では、大量発生したウニにより海藻類が食べ尽くされる「磯焼け」現象が起り、磯焼け海域では餌不足により「痩せウニ」が増加する深刻な問題が生じています。食産学群の西川正純教授と片山亜優准教授は、九州大学との共同研究を開始。高品質なウニの安定生産のためにクローバーなどのマメ科植物を餌とする「クローバーウニ」を肥育する技術開発に成功しました。ウニの陸上養殖実現に向け、2020年には株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティングとの3者共同研究がスタート。また、2021年には、国立研究開発法人水産研究・教育機構と連携協定を締結。研究開発協力や人材育成を通じ、地域の水産業の発展に貢献していきます。



TOPICS 06

東日本台風被災の丸森町で
災害看護のあり方を学ぶ
「災害看護支援論」

看護学群の災害看護プログラムでは、大規模災害に備え、医療・行政・学校等の現場で活躍できる看護職を育成しています。2021年度は「災害看護支援論」の授業で、令和元年東日本台風（台風19号）の被害を受けた丸森町のフィールドワークを実施。学生たちは、被災した民生委員に、発災当時の丸森町の状況を伺ったほか、災害対応を経験した丸森病院や町の保健福祉課・復興対策室などの現場職員達から「被災者の生命と生活を守る」被災者支援のあり方を学びました。グループごとのディスカッションを経て、平時から地域住民の防災意識を高め、職種を超えた連携のために、普段から顔が見える関係を築くことの重要性を実感する機会となりました。



TOPICS 07

古来と未来・人と人がクロスする
観光・起業・創業の拠点
とみやど・宮城大学共創ラボ

地域創生学類の佐々木研究室・風見研究室と富谷市が連携し、旧内ヶ崎醤油店跡地を活用した富谷宿観光交流ステーション「とみやど」がオープン。かつての宿場町の面影が残る『しんまち地区』で、地域の歴史的な資源や富谷市の魅力を活かした観光交流と、起業・創業の実践・チャレンジをサポートする拠点です。研究室ではこれまで、旧醤油店跡地の改装やワークショップをはじめとして、地域住民・富谷市職員とともに取り組む施設づくりを行ってきました。「とみやど」内に設置された「宮城大学共創ラボ」は、学生のフィールドワークやワークショップをはじめ地域で学ぶ拠点であり、地域の力を創出し、地域経済の活性化を推進する共創の場として機能します。



TOPICS 08

震災復興の経験を元に、次の災害に備える実践的な考察をNPO実務者が共同研究

地域創生学類の石田研究室では、NPOによる社会課題の解決手段の検証や、民間企業による社会貢献の促進要因に関する研究を通して、災害に対して市民社会がいかにレジリエンスの向上に寄与することができるかについて検討しています。社会人学生として研究室に所属する三井俊介さん、斉藤祐輔さんは、東日本大震災の発災直後に関東から陸前高田や気仙沼にボランティアとして駆けつけ、NPOを設立し活躍した実務者であり、「災害復興政策に影響を与えるNPO・政策起業家」や「災害ボランティア経験による幸福の変容」を共同研究により発表。次の災害への備えも含め、それぞれが震災復興過程で行った経験を元に実践的な考察を行っています。



TOPICS 09

現代における“家族の苦悩”演劇を作り他者に伝えることで理解を深める「家族看護論」

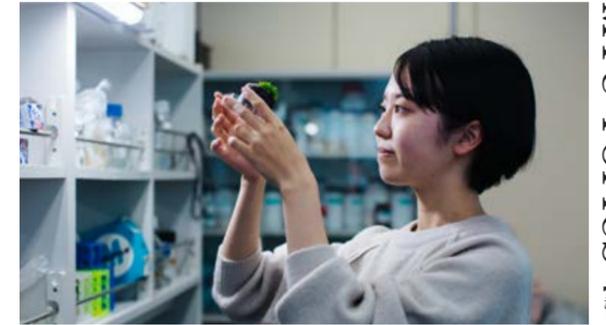
看護学群の「家族看護論」では、健康問題をもつ方を含む“家族”を看護の対象として捉え、家族に対する看護者の役割を学びます。前半は、座学で家族看護学の動向や基本理論、実際の支援事例などを学び、後半は6~7名のグループで「家族が最も苦悩する場面」を設定した劇を4週にわたって制作し、ステージで発表します。学生たちは、グループごとに、遺伝疾患・がん・精神疾患・育児困難・DV・LGBT・感染症・認知症といったテーマから一つを選択し、他のグループの演劇も相互に鑑賞することで、これらのテーマを網羅します。学ぶだけでなく、他者に伝える側立つことで、テーマへの理解を深める。それが、この授業のねらいです。



TOPICS 10

美味しいけど体に悪い「脂身」、植物由来の成分を用いて弾力やくちどけの再現に挑む

食品タンパク質機能学研究室では、加工食品の食感を改善する素材を開発しています。オリーブの葉に含まれるポリフェノールの一種が、タンパク質ゲルの網目構造を改変し弾力を高めることを発見。さらに、その成分を応用し、肉の「脂身」の食感再現に成功し、研究室の早坂駿さんは、日本食品科学工学会東北支部大会で若手奨励賞を受賞しました。安全な植物由来の成分を用いた食感改善の取り組みは食品加工の現場から注目を集めています。



TOPICS 11

陸上植物の生存戦略を理解する、ヒメツリガネゴケの「重力屈性」分子メカニズムに迫る

植物分子遺伝育種学研究室では、コケ植物のヒメツリガネゴケを用いて、植物の重力の大きさに対する反応（抗重力反応）、重力の向きに対する反応（重力屈性）の2つの反応のしくみを研究しています。研究室の小針寛乃さんは、重力屈性の研究として、突然変異体の解析を発表し東北植物学会優秀発表賞を受賞。この変異体の遺伝解析から、重力屈性にはたらく陸上植物に共通する遺伝子が見つかると考えられています。

MYU TOPICS
【教員・学生の活躍】

TOPICS 12

分身ロボット OriHime で希望する誰もが働ける社会を ICT在宅農福連携モデル実証実験

食産業政策研究室は、伊豆沼農産・石越醸造・仙台三越・みやぎ生協・オリイ研究所と連携し、農業分野の業務に、外出困難な重度身体障害者などが分身ロボット OriHime を通じて自宅から遠隔で従事することで、農業の人手不足・障害者の社会参画両方の課題を解決する「ICT在宅農福連携モデル」の実証実験を行いました。今年度は、仙台三越で食品等の物販、農福連携の普及・啓発としてみやぎ生協荒井店「農福マルシェ」へ出店を実施。OriHime パイロットと学生たちが連携して、商品のリサーチや接客を行いました。ICT技術を用いることで、希望する人誰もが働ける社会の実現につながる取り組みとして、農業・福祉の分野から注目を集めています。



TOPICS 13

VRで授業!! 南部鉄器の製造工程を学ぶ 意味的価値創造演習

デジタル技術を活用した教育の試行として、海外から評価の高い「南部鉄器」の製造方法をVR技術で体験する教育プログラムを実施しました。伝統工芸をアップデートする「タヤマスタジオ」が全面協力、南部鉄器の製造工程である「鋳型づくり」「鋳造～仕上げ」「他社製品との比較」に加え「工房の様子」「熟練職人と若手の作業比較」などをVR教材として制作しました。学生も興味・関心を多く寄せており、非正課科目にも関わらず45名の学生が参加し、「VRの授業」と「実際の現物を見る授業」を比較、教育効果の検証を行いました。これらは、技術の伝承や事業の継承といった、伝統工芸の分野が直面している課題にも活用でき、今後の展開が期待されます。



TOPICS 14

東日本大震災から学ぶ学校保健・学校安全 看護学群の養護教諭教育課程

看護学群の「養護教諭教育課程」では、2019年度より、「東日本大震災から学ぶ学校保健・学校安全」をテーマに、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市震災遺構大川小学校にてフィールドワークを実施。現地を実際に訪れたうえでグループディスカッション等を行い、教職員・子どもたちとの普段からの関係づくりや救急体制の構築など、災害発生時の養護教諭の役割等について学んでいます。



TOPICS 15

体験的学修プログラム「リアル・アジア」で グローバルコミュニケーション能力を

「リアル・アジア（オーストラリア）」では、体験的学修を通じてグローバルコミュニケーション能力を身につけ、世界への関心を育みます。約2週間のプログラムを通し、課題発見・解決能力、英語コミュニケーション能力等を養います。渡航前の事前研修では、個々の知識や経験をもとに現地の観光ビジネスにSDGs（持続可能な開発目標）の視点で提案するなど、PBL（課題解決型学習）を行います。

TOPICS 16

農業にイノベーションを 食の未来を創造する人材育成 “生物生産学類”誕生

地球温暖化、担い手不足、消費者ニーズの多様化、さらにはコロナ禍を契機とした消費生活の変化…。今、毎日の食を支える農業は大きな変革の時を迎えています。食産業学群では、農畜水産物生産のイノベーションで食の未来を創造する人材を育成するため、食資源開発学類を改組し、2022年4月、“生物生産学類”として新たな学類を設置しました。食料資源のための生命の理解からゲノム情報を利用した農畜産物の品種改良、環境に配慮した持続可能な農業生産、IoTやAIを活用した次世代農業、水産資源の持続的利用をめざした水産養殖、新しい生産技術の経営評価など、食の生産にかかわるあらゆる分野の総合的な学びを提供します。



TOPICS 17

明日を見通す力を養い 4年間の学びを深める 新しいカリキュラム

将来にわたって「明日の姿を見通す力」を養うため、4年間の学びの基礎となる「フレッシュマンコア」をより深い学びに洗練させ、これからの社会で求められるAIやデータサイエンスへの対応力を高めるコンピュータや数理統計に関するプログラムを強化。また、地域におけるリーダー育成を目指すコミュニティ・プランナー、起業スキルを学ぶアントレプレナーシップ科目の設置など、地域や社会の将来を切り拓くスキルや、幅広く時代に応じた教養を身につける新しい教育プログラムを導入しました。看護・事業構想・食産業学群では、実学志向のもと、急速に高度化する科学技術・変化する社会課題を見据えた実践的かつ専門力を高める、新しいカリキュラムが始まっています。



ホスピタリティとアメニティの究明と実現

Mission

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、
心温まる人間関係（ホスピタリティ）に
囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、
このような地域社会を実現させるために
「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

この建学の精神に則り、宮城大学では、社会の要請に応えるために
関連するあらゆる学問や技術の成果を総合化する「高度な実学」
に基づく教育研究を推進することとし、次のように大学の理念を定める。

Philosophy

大学の理念

高度な実学に基づき、
豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、
グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、
学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、 知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、 時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、 強い意志を持って実践していく。

沿革 History

平成 5 年	4 月	宮城県企画部県立大学設置準備室設置
	6 月	宮城大学創設準備委員会設置
	7 月	宮城県総合計画の戦略的プロジェクトの一つとして、県立宮城大学の整備を明示
平成 8 年	12 月	宮城大学条例制定／宮城大学設置認可
平成 9 年	4 月	宮城大学開学〔看護学部・事業構想学部〕
平成 13 年	4 月	宮城大学大学院（修士課程）設置〔看護学研究科・事業構想学研究科〕 宮城県農業短期大学4年制化基本構想検討委員会を設置 （宮城県農業短期大学創立は昭和27年）
平成 17 年	4 月	宮城大学食産業学部設置
平成 20 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔事業構想学研究科〕
平成 21 年	4 月	公立大学法人宮城大学設立 宮城大学大学院（修士課程）設置〔食産業学研究科〕
平成 22 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔看護学研究科〕
平成 25 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔食産業学研究科〕
平成 29 年	4 月	宮城大学学部改組により学群・学類制へ移行
令和 2 年	6 月	大和キャンパスにデザイン研究棟を新築

新たな時代を開拓する、人材育成の拠点として

宮城大学は開学から25年を迎えました。本学はソフト化する日本経済と多様化する保健医療福祉の課題を見越し、将来不足する人材を補うことを念頭に作られた大学ですが、この25年間で第三次産業の従事者は2割以上増大し、また、国の生存に不可欠な農業への従事者の高齢化によって今や60歳以上の割合が6割を超えるという中で、本学は今後の社会を担う高度な知識・技能を持った人材の供給に役割を果たしてきました。他方、新型コロナウイルス感染症の蔓延がこれからの日本社会に対して、感染症にも対応できる総合的な医療体制の構築、分散型国土形成の推進、デジタル化の加速、持続的な発展に不可欠なゼロカーボン社会への転換というさらなる変革を求めており、それに適応できる人材を育てていくことも求められています。

農業などの第一次産業もこの動きと無縁ではありません。農山漁村の高齢化と食料生産能力の減退への対応は待たないで、持続可能な第一次産業への変革が急務です。このため、食産業学群では2022年度から食資源開発学類を生物生産学類に改組しました。ここでは、第一次産業を再び基幹産業として飛躍させる人材となるよう、スマート化、食農ビジネス、ゲノム育種など新しい視点を取り入れた学際的で柔軟な学びができる新プログラムを導入していきます。

宮城大学は、開学以来、実学を尊重し、実践的な教育を行うことを信条として、これからの社会で即戦力として通用し、社会環境の変化に対応できる能力を持った挑戦意欲旺盛な人材の育成に取り組んできた大学です。今新たな社会変革が予想される中で、本学は2022年度から従来のカリキュラムをさらに充実させた新しいカリキュラムの導入を開始しました。新カリキュラムでは、将来を見通して学び続けることのできる基礎力を養う基盤教育を充実すること、基盤教育から専門教育への連続性を高めること、社会の変革に沿ったより高度で実践的な専門教育の展開を図ることとしています。また、その中では、AIやデータサイエンスへの対応力の拡大や地域に根づいた人材育成を強化するカリキュラムも導入します。

今やどの産業も急激な変革が余儀なくされ、今日の事業を漫然と継続していただくだけでは組織の維持は困難と言えます。このため、新たな仕事をデザインし開拓していく精神を持った人材が求められます。2020年に完成したデザイン研究棟は、全ての学生にデザイン思考を身につけてもらいたいと願い、その中核となることを企図して運営をしています。

本学は、新カリキュラムの導入にとどまらず、引き続き社会の転換を見据えた質の高い教育研究を進め、これからの社会に求められる人材の育成に努めています。

理事長兼学長 川上伸昭

1・2年次で学ぶ基盤教育の主要な科目群

フレッシュマンコア

[全学群共通：必修]



「フレッシュマンコア」科目で大学での学びの基礎を築きます。

強固な知的基盤の上に専門の学修を積み上げましょう！

技法知

リテラシー

全ての基盤となる
言語スキル、数量スキル、情報スキルを
身につけます。

学問知

知識×考え方

基本的なトレーニングを通して
思考力を高めます。

実践知

実践力

「自己理解」「他者理解」を
深めながら実践力を養います。

フレッシュマンコアとは、1・2年次で学ぶ基盤教育の主要な科目群であり、
全学共通の基盤教育必修科目群です。

豊かな人生を送る上で必要な「技法知」「学問知」「実践知」を養います。

専門分野への学びに繋げていくだけに留まらず、その先を見据え、

自分の未来を切り拓いていくための指針を、

フレッシュマンコアを中核とする基盤教育を通して身につけていきます。

新しくなった「基盤教育」で、明日の姿を見通す力を身につけ、
自分の未来を切り拓くための知的基盤を養います

大規模な自然災害や世界的な疫病の流行、ビッグデータやAIを駆使した社会イノベーションなど、私たちが取り巻く世界は、これまでより変動的で、不確実で、複雑で、曖昧な世界になりつつあるようです。私たち一人ひとりが人生を豊かにし、かつ社会全体がより良い方向に向かうためには、各自が将来にわたって「明日の姿を見通す力」を身につけ、自分の未来を切り拓いていくことが大切になります。宮城大学の全学生に向けて開講される基盤教育科目は、「技法知」「学問知」「実践知」を養う基礎となるフレッシュマンコア科目に加え、芸術・人文学、人間科学、社会科学、グローバルコミュニケーション、自然科学などの科目群があり、これまで人類が蓄積してきた「知」を俯瞰し、掘り下げていく科目が開講されています。令和4年度からはカリキュラムが改編され、新しい基盤教育科目がスタートします。フレッシュマンコア科目の充実を進め、数理・データサイエンス・AI教育の強化、学群専門科目との接続性の強化、国際感覚を養う科目の新設など、本学の特色を活かした基盤教育の実現を目指しています。これらの「知」は、仕事や生活の一場面で「私（たち）はどうすべきなのか」という決断を迫られ、不安や責任に押しつぶされそうなときに、一歩踏み出す指針と勇気を与えてくれるでしょう。広く深く「知」を探求し、「新しい知」を発見し獲得していくことは、自分の人生を豊かにするとともに、自由にそして強くしなやかに生き抜くコツでもあるのです。



基盤教育群長 平岡善浩教授

幅広く、そして偏りなく、多様な学びを積み重ねていきます。

4年間は長いようで、あっという間に過ぎてしまいます。4年後の成長した自分をイメージして大学生活をスタートさせることが重要です。そのためには、受験勉強とは違う大学での学びの作法を身につけることと、自分と社会を見つめることで自分の将来に見通しを持ち、自身の大学での学びの意義づけを自ら行うことが必要です。そのためにフレッシュマンコアがあります。



スタートアップセミナー I・II

宮城大学での学びの基礎を確立する導入科目です。大学の学びに必要な知見やスキルを講義形式で学び、学群ごとの少人数ゼミ形式で演習やグループワークを行い、実践的に身につけます。また、卒業後にも必要な汎用性の高い知見、態度の涵養とスキルの習得を目指し、自分自身の現在・過去・未来につながるキャリアデザインを考えていきます。



コンピューターリテラシー 情報化社会と技術 基礎統計学 I・(II)

現代社会において、AIやビッグデータを活用する知識やスキルは必須となりつつあります。これらの科目は全学必修科目として、その基礎的な理論や技法を、情報科学や計算機工学、統計学といった学術的な視点から学んでいきます。道具としてコンピューターやネットワークを使いこなし、様々なデータに対して正しい知識と解析技術をもって妥当な解釈を得る能力を身につけます。



Student Voice

3年次からの基礎となる、「論理的思考」と「スキル」を学べる場

基盤教育では、3年次からの専門科目の基礎となる、様々な科目を学びました。スタートアップ・セミナーでは、ディベートのやり方や地域課題の解決に向けた取り組み方、ライティングなどを中心に、様々なスキルや思考法を身につけることができました。講義では、実践を通してコンピュータ活用や統計学のエッセンスを得ることができました。今後は、農作物や加工品のブランディング、6次産業化などを学びたいと思っています。「フレッシュマンコア」で培った論理的思考やスキルを自分なりに発展させ、活かしていきたいです。

木村憲さん(食産業学群) 宮城県宮城野高校出身



地域フィールドワーク

地域社会について座学を中心に学びつつ、グループ単位のフィールドワークで地域課題の発見とその解決に取り組みます。地域に関する知識やフィールドワーク手法の習得だけでなく、地域社会の将来に対する学生の使命感を涵養し、主体的な学びへと促すことも目的の一つです。

1. 講義

初回講義では、フィールドワークの位置づけや意義を確認し、訪問時の心構えやマナー等のリテラシーを修得します。

2. グループ演習

事前にヒアリングの練習を実施したうえで、グループ単位で各訪問先を訪れ、ヒアリングとフィールドワークを実施します。

3. フィールドワーク

グループに分かれて、訪問先の方から地域の特徴や見所を解説していただくなど、地域に関する知識や理解を深めます。

4. グループ演習/発表

フィールドワークの背景、目的、調査結果、分析をまとめた成果物を作成し、学生相互に発表して意見交換を行います。

Student Voice

主体的な学びを通じて、地域の課題発見・解決に取り組む

地域フィールドワークでは、東日本大震災で被害を受けた地域を訪れ、震災遺構を巡り、10年以上経った現在でも、地域に深く残る震災の影響を改めて実感しました。グループワークでは、現地の方々から話を聞く機会が豊富に設けられていたことで、地域への理解をより深めることができました。私は、町独自の子育て支援について調べたのですが、講義から発表までに至るフィールドワークの一連の経験を通して、主体性を持って行動することの意義や、地域への深い学びを得ることができました。ここで得た地域課題の発見と解決力を、今後の実習や演習で活かしていきたいです。

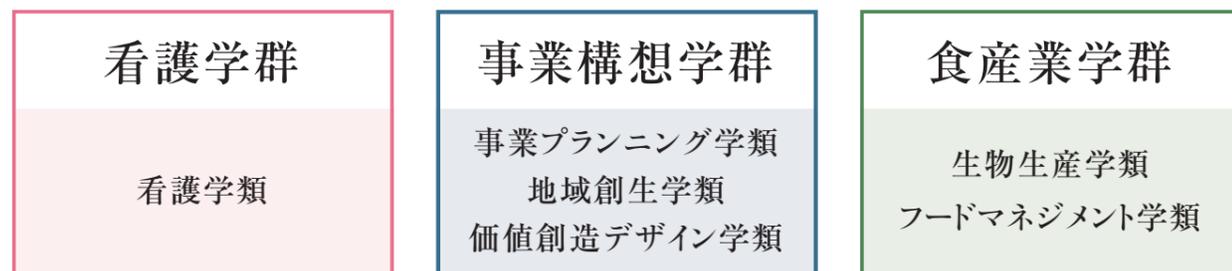
川嶋莉奈さん(看護学群) 宮城県仙台二華高校出身



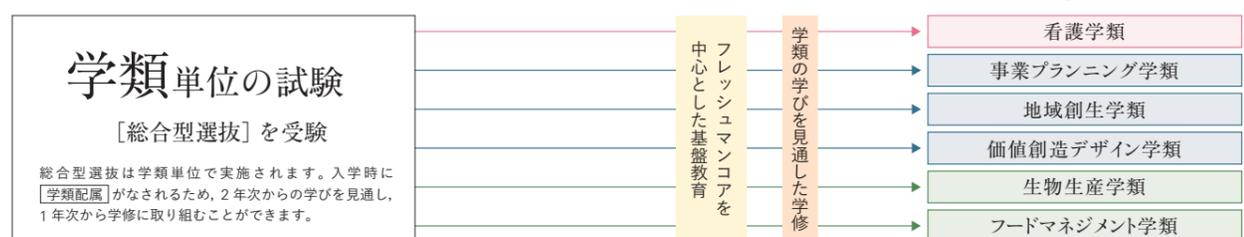
学群・学類での学び

宮城大学では、2017年度入学者より、学群・学類制による新たな教育を展開しています。このことにより、学類の垣根を越えてバリエーション豊かな専門教育が受けられるようになりました。また、入学者の募集単位も「学群単位」「学類単位」の2つを設定しています。

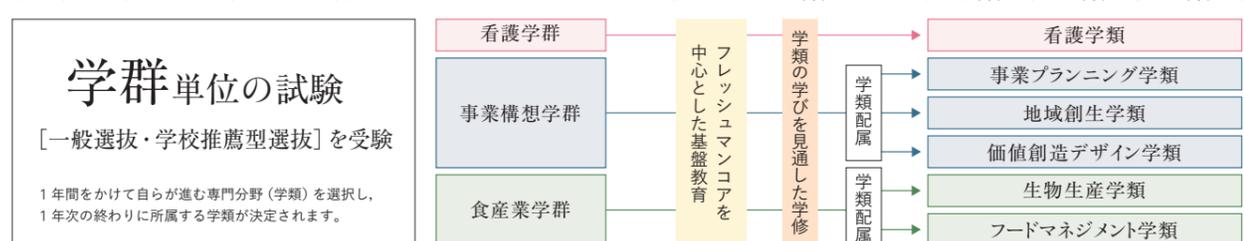
一般選抜と学校推薦型選抜は、「学群単位」の募集となりますので、事業構想学群と食産業学群の学生は、入学後1年間をかけてじっくりと自らが進む専門分野(学類)を選択し、1年次の終わりに所属する学類が決定されます。(看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶこととなります。)



●大学に入学する前に学びたい分野が決まっている



●大学に入学してから学ぶ分野を決めたい



※看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶこととなります。

学類配属について (一般選抜・学校推薦型選抜で入学された方)

所属学群ごとに、学生一人ひとりが自分としっかり向き合いながら、担当教員と一緒に1年かけて考えていきます。1年次の学修成果(1年次の成績や希望学類に関するレポート、面接等を予定)による選考を行い、学類配属を決定していきます。

オリエンテーション [4月]	学群・学類による4年間の学びを見直し、学類配属にかかるスケジュールや手続き等について説明します。	予備調査・面談 [4~1月]	希望学類についての予備調査を複数回実施します。予備調査の結果等を踏まえ、担当教員と面談を重ねながら、それぞれの興味や関心に合った専門分野(学類)についての理解を深めていきます。
学類配属ガイダンス [10月]	前期試験の成績発表を受けて、学類配属についてのガイダンスを実施します。	希望学類の届出・学類配属の決定 [2~3月]	後期試験の成績発表後、2月から3月にかけて希望学類の届出を行います。選考の結果、最終的な学類は3月末までに決定されます。

※スケジュール等は変更になる場合があります。

看護学群

看護学類 入学定員95名

入学者に求める能力

- (1) 人や地域社会、看護に関心を持っている人
- (2) 人の喜び、苦しみを分かち合える温かい思いやりを持ち、人との関係を大切にできる人
- (3) 科学的探究心を持ち、主体的かつ柔軟な発想で取り組むことができる人
- (4) 国の内外を問わず、看護学を通して地域社会に貢献しようと思っている人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

看護学群は、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考とマネジメント能力を持ち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域の人々、多分野・異文化の人々と協働して学際的に活躍できる人材育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格(選択)
- 養護教諭一種免許状(選択)

卒業時に取得できる資格・免許は、「看護師国家試験受験資格」が全員、保健師教育課程を選択した学生は「保健師国家試験受験資格」、養護教諭教育課程を選択した学生は「養護教諭一種免許状」を取得できます。

持続可能な社会を健康の側面から実現する看護人材をはぐくむ

SDGsという言葉をよく耳にする機会が多くなりました。SDGsはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称であり、今、世界が注目している言葉です。2030年の達成を目指し、貧困や健康、福祉、環境などの17の目標を掲げ、各国で様々な取り組みがなされています。なぜ、「持続可能性」か。これは、これからの時代の環境や社会の安定性への懸念の現れでもあり、多様な人々が、安心して、差別されることなく健康に暮らせる社会を目指し、変

化していくことへの期待でもあります。看護は、まさに、人、社会、環境の中にある課題を発見し、健康の側面から暮らしの持続に関わります。人や取り巻く環境が持つ力をエンパワメントしながら変化を図り、多様な状況にある人が、地域や社会の中で、より健康に、より豊かに生きることを支援します。宮城大学は、看護、事業構想、食産業の3つの学群からなる人の暮らしに関わる学び場です。他分野の学生と共に学ぶ環境の中で、未来に繋がる看護を学びましょう。



看護学群 学群長
高橋和子教授

看護学類

看護学の基盤となる知識・技術を身につける「専門基礎科目」と、看護学の専門性を深め、広げる「専門科目」を学年進行に沿って体系的に配置しています。

国際看護プログラム

国際協力の現場や多様な文化的背景を持つ人々への看護臨床で、関係者と協働した看護実践を行えるための基礎的能力の修得を目指しています。4年間を通して、外国語やグローバルな視点での健康課題や文化ケアアプローチについて学びます。海外の大学の看護プログラムや国際援助の実際に関する講義等への参加を通して、国際看護の魅力を実感できます。

災害看護プログラム

災害サイクル各期において支援ができる看護職を目指す学生が、災害看護の基礎的知識と技術を身につけるためのプログラムです。学生は学修を進めるにあたり、1年次から学びの振り返りができるポートフォリオを作成しながら、指定された科目を学びます。また、その学びを活かした災害看護関連のボランティア活動を行うことでさらに深い学びが可能です。

看護学群のキャリア支援

学生一人ひとりの自己実現のために、そして看護職として自律した社会人になれるようキャリア支援を行っています。

卒業後の進路

- 病院や施設・地域で働く看護師
- 自治体や企業の保健師
- 幼・小・中・高・特別支援学校の養護教諭
- 大学院や助産師養成校への進学

キャリア教育

4年次に学生自身が進路決定できるように、1年次からキャリア開発教育を通して学修します。具体的には、1年次から3年次まで行われる「キャリアガイダンス」、「公務員セミナー」、「養護教諭セミナー」を開催します。その中で個々の学生が、自らの適性を考え職業の選択ができる能力を育成します。

就職・進学相談

4年次はキャリア開発担当教員により、学生が希望する進路について「個別相談」を計画的に行います。また、キャリア開発室の進路指導員による就職試験に向けたエントリーシート作成支援や面接対策など、きめ細かな支援を行います。

国家試験対策

「看護師」「保健師」の資格は、国家試験の合格をもって得られる資格です。4年次には、定期的な模擬試験とその解説会を行い、学びを定着させます。また、国家試験直前対策として教員による学習会を行うなど、合格に向けてのサポート体制を構築しています。

看護学類



Nursing with a Look to the Future.

看護専門職としての基礎能力を身につけながら、

同時に看護に大切な“豊かな人間性”と“高い倫理観”を育み、

病院はもちろん、地域・在宅等で広く活躍できる看護職へ。

人の多様性を知って看護実践する力をつけよう

病院、在宅、地域、学校、企業等の多くの場で、看護が求められています。様々な場には、乳幼児、学童、青年、社会人、高齢者と年代の異なる人々がいます。看護学は、人のすべての年代の特徴を知り、体を知り、心を知り、社会や環境との関係における健康を知って、活動する学問です。看護学群4年間では、多様な場、多様な人々の健康を考え、援助を経験し、看護を必要とする人と共に歩む基礎能

力を身につけます。1年次の講義・フィールドワークを通じて養う、広い視野で人や環境を見つめる力と、学生自身が自己成長する力が、看護専門能力を高める土台となります。2~4年次での学修で重要なことは、看護の専門知識を蓄えること、看護を実践する力を持つこと、看護の専門性を追求することです。今後の多様な社会に対応し、成長し続ける看護専門職を目指していきましょう。



看護学群 副学群長
菅原よしえ教授

看護職として社会で活躍できるように、キャリア形成の基盤を総合的にサポート



看護の基本的な技術を学修するためのナースング・ラボ



看護学類 太齋滯さん
宮城県泉高校出身

Student Voice

グループワークから、コミュニケーション力と広い視野を身につける

講義では、グループに分かれての意見交換や、周囲と相談しながら学習を進める機会が多く、多様な意見に触れることができます。そのため、看護職として必要不可欠なコミュニケーション能力や、視野を広げて考える力を身につけることができます。先生方へ積極的に質問できる距離の近さも、学びを深められる要素のひとつです。また、1年次から大きな病院での実習があり、基

礎力と実践力を同時に高められることも利点です。2021年は新型コロナウイルスの影響で実習が中止になることがありましたが、学校設備で臨地を想定し学びを継続できたのは、実践を重視する宮城大学ならではの強みだと思います。今後は「災害看護プログラム」での学びを深め、地域に貢献できる看護師になるために、今できることに尽力していきたいです。



看護師国家試験合格率
(第111回:全国平均91.3%) **98.9%**

看護師国家試験受験資格

看護師国家試験を受験することができる資格です。国家試験に合格することで看護師として働くことができます。看護師は多様な場における保健・医療の第一線で活躍し、予防、治療、回復過程にある人々、そして病気と共に生きる人々が、その人らしく生活し、生きることを支える役割を担っています。

保健師国家試験合格率
(第108回:全国平均89.3%) **92.7%**

保健師国家試験受験資格

保健師国家試験を受験することができる資格です。保健師は、家庭訪問や健康相談、健診などの各種保健事業により、一人ひとりの健康生活への支援を行います。また、地域の健康データを分析し、健康課題の解決に向けて、地域の人々や関係機関の人々と協働して健康なまちづくりをめざして活動しています。



Qualifications [資格取得について]

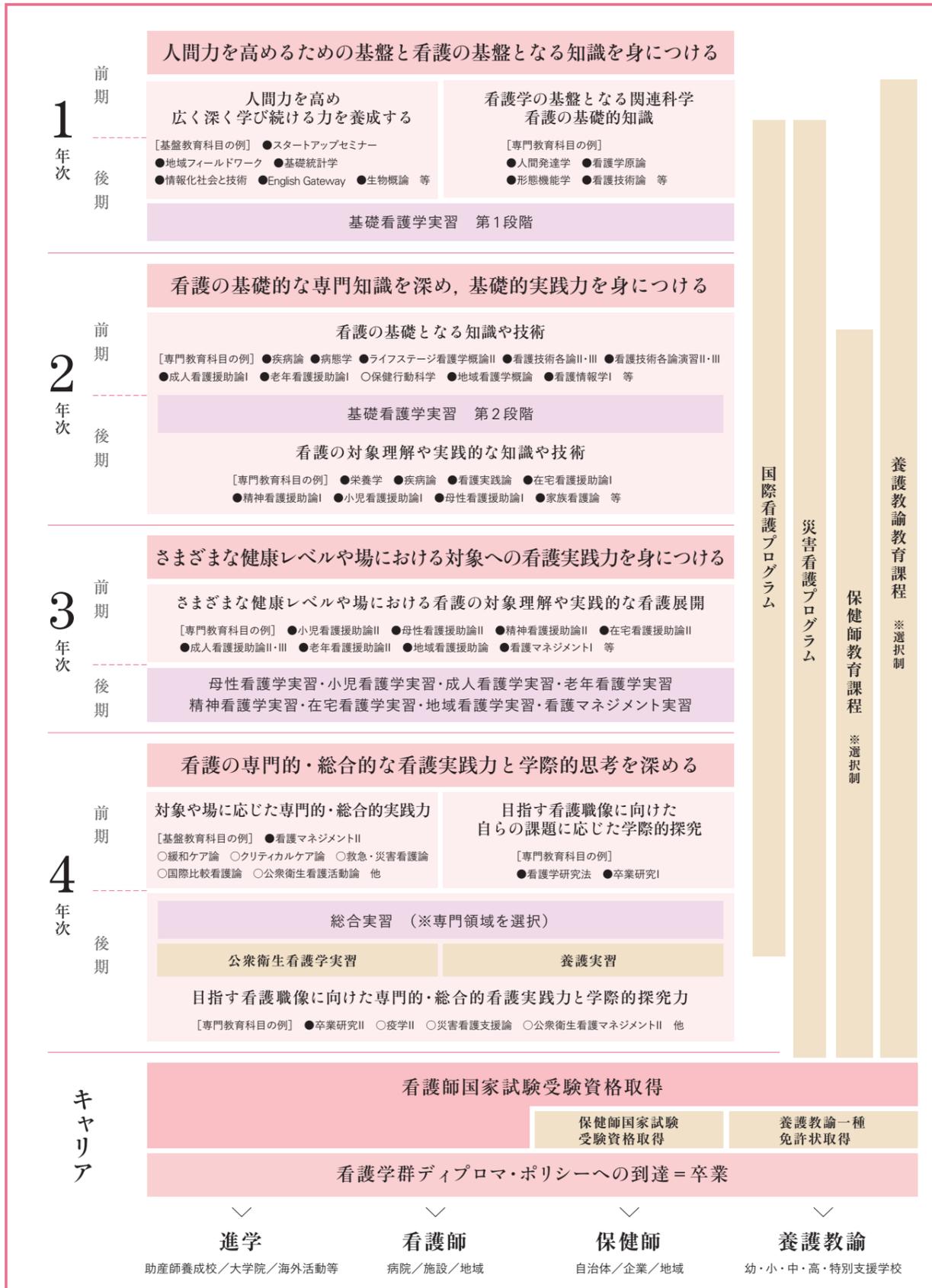
養護教諭一種免許状

幼・小・中・高等学校・特別支援学校において、児童・生徒の心身の健康管理を行うと同時に、学校の保健教育の担い手にもなっています。いわゆる「保健室の先生」です。

※保健師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状は選択制です。いずれか一方を選択できます。

看護学類:4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

病院全体の医療安全を支える 縁の下の力持ちとして

JCHO 仙台病院
医療安全管理部 看護師長
倉持由紀子さん(2004年3月卒業)

病院の医療安全管理を担当しています。患者さんや職員の安全を確保し、質の高い医療看護が提供できるようにする仕事です。マニュアル作成や院内のルールが守られているかの確認や指導、職員への安全教育も行っています。責任が大きく大変ですが、関係部門や多職種と一緒に仕事を進める取りまとめ役として、医療事故防止のための縁の下の力持ちとしてのやりがいを感じます。宮城大学では、基本的な知識技術だけでなく、マネジメントの視点や研究的な探究心を育むことができました。その学びは、病院全体を広い視野で把握し、組織横断的に業務を行う現在の職務に活かされています。今後は、社会の変化やニーズが多様化する中で、必要な看護は何かを自ら考え、専門外の職種や地域社会と協働しながら看護の専門性を発揮できる看護師を育てていくことが目標です。



Graduates [卒業生の活躍]

看護学類

進路データ



MYU LEARNING COMMONS

対話的かつ主体的な学びを。新しい学修スタイルに対応するラーニング・commons



大学で「学ぶ」ことは、教員の「Teaching」を受けるのみならず、自ら深めて学ぶ「Learning」を通して達成されます。こうした対話的かつ主体的な深い学び（アクティブ・ラーニング）に授業以外の時間を利用して取り組む空間が、ラーニング・commonsです。

「スチューデントcommons」は、机や椅子を自由にレイアウトでき、軽食をとりながら、規模を問わずミーティング等をいつでも気軽に行うことができます。海外留学や語学試験などの相談もできる「グローバルcommons」は、英語をはじめとした語学教材や海外放送、海外雑誌が揃っており、異文化に触れたい人や、留学生に最適の場所です。

「ディスカバリーcommons」は、約13万冊の蔵書を誇る図書館で、学生同士のミーティングやイベントを開けるスペースです。「データ&メディアcommons」には、パソコン学修を想定して各机にコンセントが配置された少人数学修空間「オープンスタディ」、多様なPCソフトウェアとプリント機器が使用できる「デジタルリサーチ」のほか、各キャンパスの学びに合わせたデジタル機器空間や、パソコンの相談ができる「サポートオフィス」があります。

学ぶ意欲のある学生が、学生同士で学びあえる空間がラーニング・commonsです。目的にあった環境を見つけ、「Learning」のための居場所にしてください。



事業構想学群

事業プランニング学類 入学定員 60名

地域創生学類 入学定員 60名

価値創造デザイン学類 入学定員 80名

入学者に求める能力

- (1) 地域社会の動向や時代の流れに興味を抱き、自ら問題を発掘し、論理的に考え、表現することを学ぶための基礎的な学力を有する人
- (2) 大学での勉学に対する強い意欲を持ち、高度な知識とスキルを身につけることによって具体的な行動をとらなう地域社会の課題を主体的に解決し、貢献することを目指す人
- (3) 事業構想（プロジェクト・デザイン）の分野でイノベーションをデザインすることにより、来るべき社会における新たな展開に貢献することを目指す人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

事業構想学群では、現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的に捉え、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政、社会の各分野で先導的役割を担える人材の育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 簿記検定 ●公認会計士 ●税理士
- 技術士 ●防災士 ●中小企業診断士
- ITパスポート試験 ●WEBデザイナー
- 建築士 ●インテリアプランナー

社会保険労務士/司法書士/宅地建物取引士/総合旅行業務取扱管理者/基本(応用)情報技術者/統計検定/銀行業務検定/色彩検定/マルチメディア検定/CGクリエイター/CGエンジニア/画像処理エンジニア/福祉住環境コーディネーター/認定ファンリテイマネージャー等
※めざせる資格は学類ごとに異なります。

地域の社会・文化に立脚し、世界に繋がる人材育成を目指す「知の拠点」

事業構想学群は、これまでの歴史の中で受け継ぎ発展させてきた生活や社会、文化や環境を守り育（はぐく）みつつ、それらを未来に譲り渡していくための様々な活動（Project）を実践し、創意工夫とともに新たな技術や手法を構築（Design）、そのための多様な学びの環境を展開する学群です。事業構想学群には3つの学類があります。私たちの人生を魅力に満ちたものとするための生業（なりわい）の考える「事業プランニング」、賑わいと愛情に溢れた地域

社会の創出を思考する「地域創生」、そして世界の本質を探究し、叡智を結集させた“もの・ことづくり”を学ぶ「価値創造デザイン」。ここで学ぶ学生たちには、学年が進むにつれそれぞれの専門分野に特化した研究・学修を深めていく機会が与えられますが、相互横断的に他の分野の知見を自らの就学の糧として身につけながら行動力のある臨機応変な未来人として成長していけるよう、最善を尽くしていきたいと思ひます。



事業構想学群 学群長
中田千彦教授

事業プランニング学類

入学者に求める能力

新たな発想に基づき、実行可能な計画をまとめ上げることに強い関心を持ち、その際に必要となる、情報・データの読解、論理的な思考や表現の方法を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

現実の社会で顕在化している諸問題を分析し、新たなビジネスモデルの構築と運営できる能力（事業プランニング力）を育成します。

地域創生学類

入学者に求める能力

多様化・複雑化する地域社会の諸問題に対して強い関心を持ち、その課題解決に向けて思考・分析を行うとともに、地域活性化を目指すまちづくりや産業育成、それを動かす人・組織のデザイン、そして持続可能な環境に関する理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

現実の社会で顕在化している諸問題を分析し、地域資源を活用することで新たな地域を創生する能力を育成します。

価値創造デザイン学類

入学者に求める能力

人間感性や地域風土に根ざしたデザイン原理や、人々の生活の場である建築・街・インテリアなどの空間や情報コミュニケーションをデザインする理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

人間の感性や地域の資源に応じた新しい価値を創造できるサービス・生活環境・製品（ものづくり）を探究創造する能力（価値創造デザイン力）を育成します。

事業プランニング学類



Forge Your Own Path in Business.

潜在化した課題を見通し、ビジネスを思い描き、それをどう具現化するか。

人や組織を巻き込む人間力と、科学に基づく分析力を学び

新たなビジネスモデルの構築と運営できる人材を育てる。

ビジネスプランを具現化する

「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」。小説家ジュール・ヴェルヌの有名な言葉です。この言葉、実はプランニングの可能性を示していると思っています。サービスやテクノロジーが生み出された瞬間は、その価値が何で、どんな意味があるかは、なかなか理解されません。アイデアの発案者は自分の想像力を信じ、ビジネスプランを描きます。消費者の意見や競合の動きなどを得ることで、ビジ

ネスプランはどんどん洗練されていきます。磨かれたビジネスプランはあなたの言葉に説得力をもたせ、周囲の人間を巻き込んでいくことでしょう。プランニングとは想像を具現化することなのです。そしてこのプロセスこそ「事業」プランニングであると考えます。困難な道のりではありますが、我々には学問という叡智があります。どうですか？ワクワクしてきませんか？さあ、一緒に学んでいきましょう。



事業プランニング学類 学類長
安藤裕准教授

事業創出に向けて専門領域を深める学び



マーケティングリサーチ

経営者はたえず意思決定をすることに迫られます。「新規事業を実施すべきか?」「ターゲットユーザーを誰にするか?」「再購入率を上げるために素材の変更をするべきか?」。日々の意思決定はビジネスの成否に直結します。本講義では、企業が意思決定をするために必要な方法として、マーケティングリサーチを学びます。顧客の心理や行動を測定、分析、考察し、実社会で活用できるスキルの習得を目指します。また科学的なアプローチを大切に、手法の背景にある心理学や統計学も学んでいきます。



経営学概論

19世紀末以降、企業を研究対象とする学問として発展してきた経営学は、今日では、経営という活動・行為・現象を研究対象とする学問という側面が強くなっています。つまり、「経営=組織の運営」と捉えれば、経営学は企業に限らず、行政組織、病院、大学、NPO・NGOなどの組織にも適用可能です。この科目では、企業形態論、経営戦略論、経営組織論および組織行動論という経営学の主要な研究領域に沿って、基本的概念や理論の概要を具体的な事例を交えながらバランス良く学ぶことができます。



幅上陽太さん
岩手県立一関第一高校出身

Student Voice

生きた知見に紐づく講義とゼミから、実践知を養う

実務経験を積んだ先生方が、自らの知見を踏まえた講義を展開してくれることに魅力を感じます。ゼミでは、企業の経営戦略を、理論と実践の両軸から学びました。企業担当者を相手にしたコミュニケーションやプレゼンテーションを通じて、ビジネススキルも身に付けることができました。

主な学べる分野

経営財務・金融／経営学・組織論／
経営戦略／法学／経済学／
マーケティング／社会システム／
社会調査／eビジネス／会計学



絹村研究室

戦略と会計を繋ぐ管理会計システム

基幹産業である自動車業界、変革を余儀なくされている製紙業界を対象に、管理会計の知見を中心に、経営戦略等多角的な知見をも活用しプロジェクトワークを行っています。



金子研究室

経済理論を踏まえた市場の分析

ミクロ経済学を中心に経済理論を修得しつつ、理論書とは様相の異なる現実の市場の実態も分析します。企業へのインタビュー調査などを通し、実学に基づく考察も深めていきます。



高山研究室

講義で学んだものを、実践へ

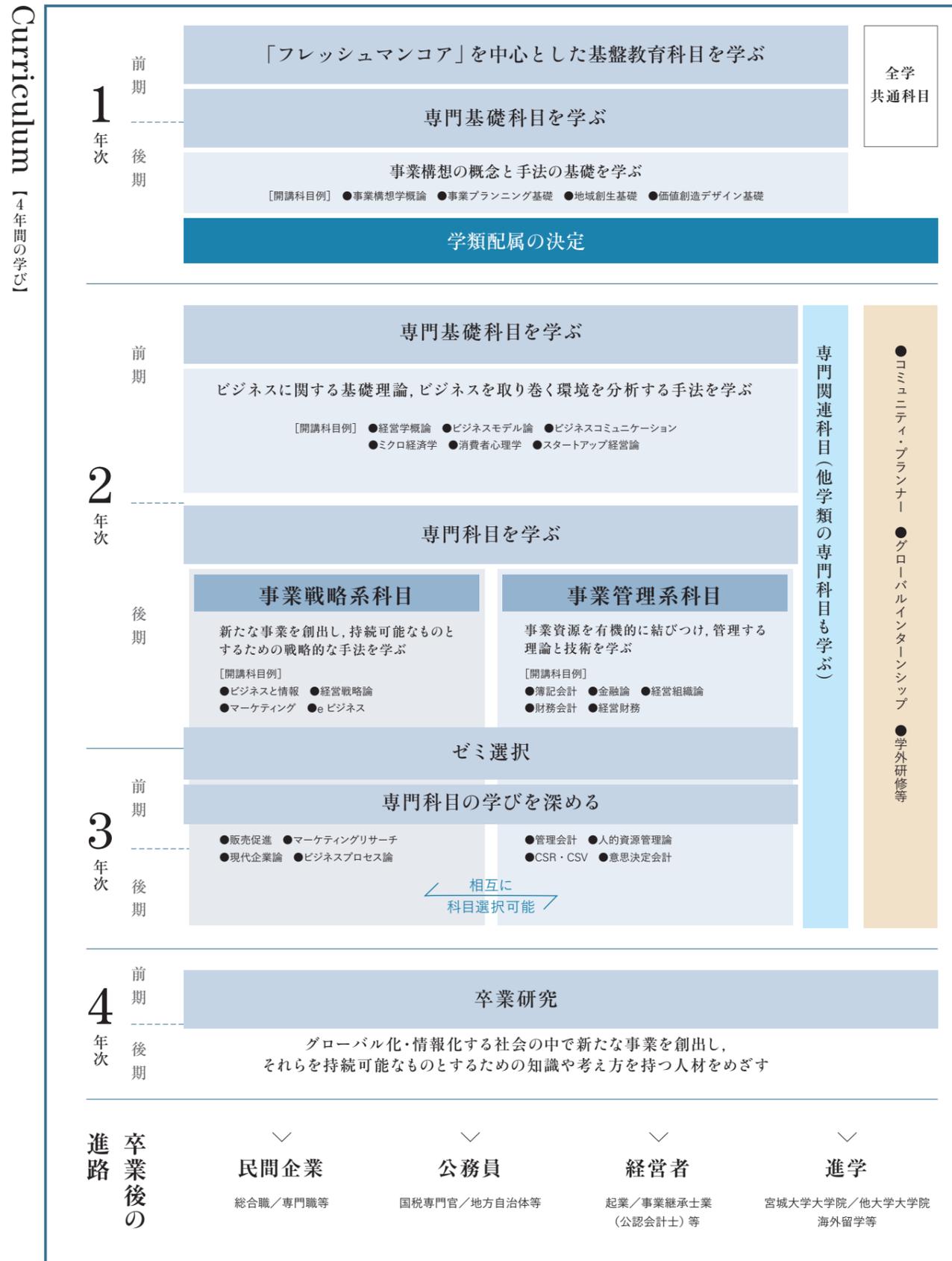
実践、行動、挑戦。マーケティングゼミでは理論はもちろん、それを行動に移したかどうかを重要視しています。成功したかどうかではなく、挑戦したか、最後までやりきったのか。それを楽しんでください。

Classes [授業紹介]

事業プランニング学類

MYU Seminars [研究室紹介]

事業プランニング学類：4年間の学び



社会で活躍する卒業生

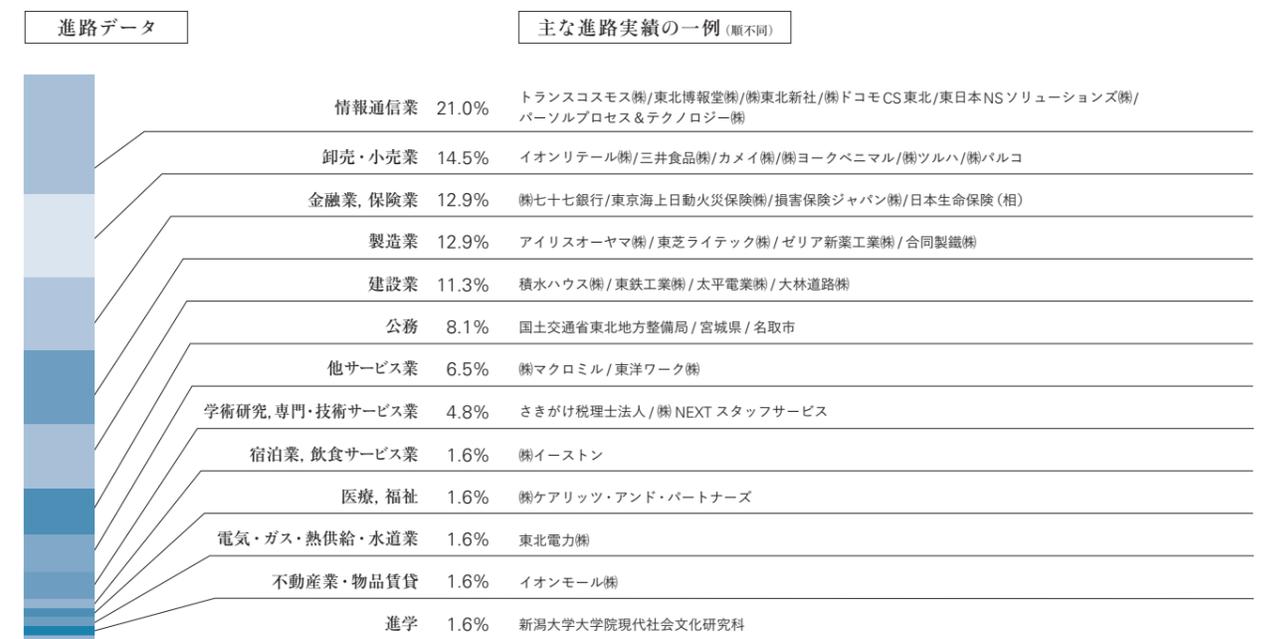
大学での経験を礎に
会社と共に成長する

楽天グループ株式会社
広告メディア部門副部長
小林大亮さん(2007年3月卒業)

アプリメディアの事業責任者をメインに担当し、プロダクトマネージャーとして、UXデザインやセールス戦略、広告主のビジネス拡大のお手伝いなどに携わっています。急速な変化を体感しながらさまざまな仕事にチャレンジでき、会社の成長を通して、自分の想像を遥かに超える成長の機会を得ていると感じます。宮城大学では、実務経験豊富な教授陣やカリキュラムを通して、新しい価値を創造するプロセスを学びました。この経験が、今の仕事の礎になっています。社会に出てみると、事業プランニングという領域の重要性をより強く感じます。新しい価値を構築する人材が求められる今、事業構想領域を学ぶことは希少性の高いスタンスとスキルを身につけるきっかけになると実感しています。今後は、海外向けにもサービスやソリューションを提供・展開していきたいです。



進路データ



進路データは、2022年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入

地域創生学類



Creating Sustainable Societies.

災害や人口減少を始め、地域の様々な課題をいかに自分事として解決していくか。

社会課題解決に寄与する事業創造や地域政策、それらの根拠を導く科学的分析手法を学び、

ソーシャル・イノベーションをもたらす原動力となり、社会に貢献する人材を育てる。

地域創生のためのプロジェクト・デザイン

世界の課題をビジネスや政策で次々と解決し、社会を豊かで持続的なものにするために何を学べばよいでしょうか。地域に一步踏み出すと、直面している問題と原因の複雑さや、人々の考え方や生き方の多様さに衝撃を受けます。地域創生学類では「人・社会・環境」をテーマに、問題解決のための政策やビジネス、プロジェクトについて学び、体験し、地域の創造的発展を探究します。問題

を的確に捉え、先を見据え、解決策を提示する高度な能力が求められます。そのために、物事や事象を分解して捉えられる知識とスキルを養います。同時に、向き合いたい地域やモノ・コトに出会い、対話し、実践し、失敗し、また学びましょう。地域との関わりは生涯続きます。学び方を学び、関わり方を修得して、学び続けながら社会に貢献できるプログラムを準備して、みなさんをお待ちしています。



地域創生学類 学類長
石田祐教授

フィールドワークを通して、地域課題の解決をより実践的に学ぶ

佐々木研究室

コミュニティ・デザインによる事業創造 持続可能な地域経営モデルの構築

地域資源マネジメント研究室では、地域共生プランニングの視点から、自治体や企業など多様なセクターと連携し、地域資源を活用したプロジェクトの実践を通して、持続可能な地域経営の手法に関する研究を行っています。研究室では、ナラティブ・アプローチによる地域資源調査を行った上で、それぞれの地域の実情に応じた事業モデルの構築と提案を行い、その成果を広く社会に還元しています。協働・共創を生み出す場となるコミュニティ・プレースの形成、地域資源を活かした地域ブランド開発など、プロジェクトベースでの活動から、地域の課題解決の実際を実践的に学びます。



小沢研究室

東北の景観や震災と復興の歩みから私達は何を学ぶか

広大な森林、点在する火山や湖沼、流域を潤す河川等を舞台に営まれる、農林水産業や、地域天然資源に依拠した鉱工業等、刻まれる歴史、育まれてきた文化や祈り、東北には様々な景観が展開しています。東日本大震災による激甚の被災や、福島原子力災害からの復興と再生、内外の人の交流を通じて、これまで積み重ねられてきた試行や教訓から学ぶことはあまりに多く、その蓄積は、更に次々に伝えられていくことが求められます。キャンパスの内外を駆けめぐりながら、私達を魅了してやまない、これらふるさと東北の景観を読み解く試みに、一緒にチャレンジしていくことができると考えています。



Student Voice



早坂蒼さん
尚綱学院高校出身

地域課題の解決力を養う、特別な場所

フィールドワークなどの実践的活動を通し、地域と密接に関わる地域創生学類では、多角的に問題を捉える力や、地域課題の解決力を養うことができます。この考え方のプロセスは社会に出て行く人間として必要なスキルです。地域創生学類はその力を得るための特別な学びができる場所です。



地域企業論

東北の地域企業の成長戦略を考える

日本酒や伝統工芸など様々な産業で積極的にグローバル展開を図る地域企業が増え、地域経済の活性化源となっています。これら地域企業の基礎理論を学び、成長戦略と一緒に考えます。



ソーシャル・キャピタル

社会や地域に影響をもたらす人間関係

多様な人間関係の中でもソーシャル・キャピタルと呼ばれる関係性が注目を集めています。この関係性が社会や地域に影響を及ぼすことを、事例やデータをもとに探っていきます。

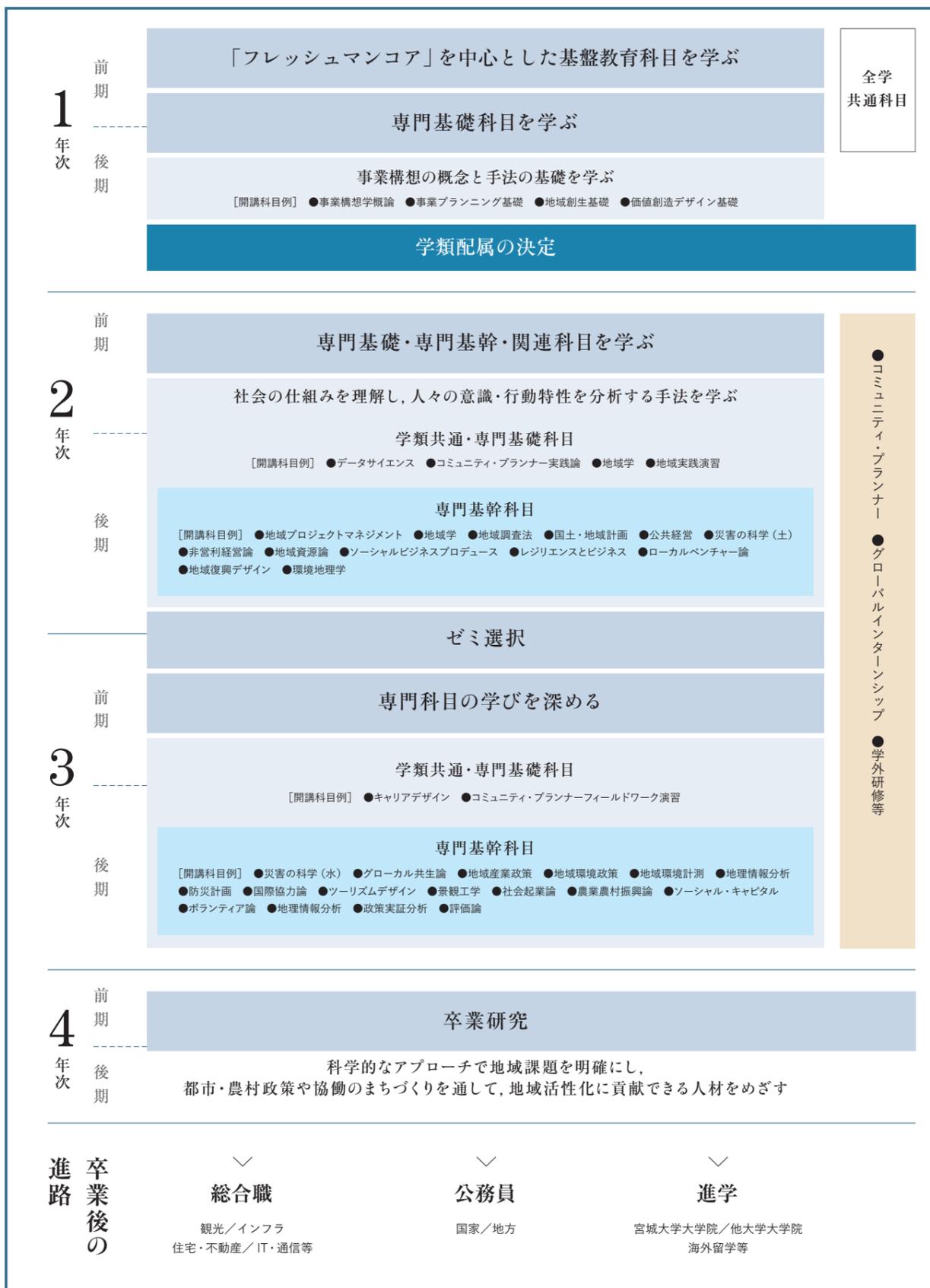


地域環境計測

道具を使い地域環境の特性を知る

地域環境の特性を知るためには、ドローンや各種センサーを利用して地形、位置、気象など多くのことを把握することが重要です。様々な分野で用いられる測量の技術やモニタリングの手法を学びます。

地域創生学類：4年間の学び



社会で活躍する卒業生

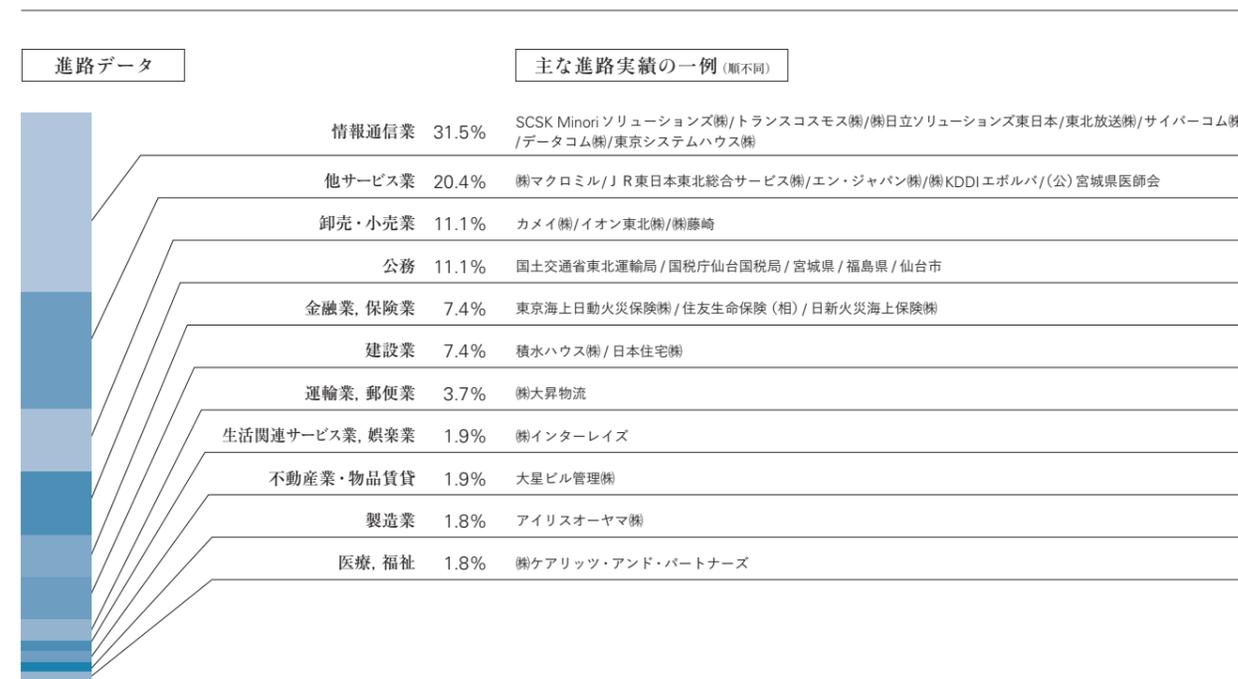
まちの公共施設から 市民の暮らしを豊かに

周南市立徳山駅前図書館
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
岩佐彩音さん(2021年3月卒業)

自分が東日本大震災で被災した経験から、まちの復興やまちづくりに興味をもち、地元での実践を交えながら学べる宮城大学を選びました。卒業後はカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)に入社し、図書館でのカウンター業務や配架・書架整理のほか、広報も担当しています。市民のみなさんが地元をさらに愛せるような、暮らしを豊かにするヒントを館内広報誌やSNSで発信する中で、この場所に人が集い、つながりの輪が広がっていくことにやりがいを感じます。宮城大学は、少人数制で学生・先生との距離が近く、第二の居場所ともいえる場所でした。ゼミやフィールドワークのチーム活動では、物事を客観視し全体を把握しながら動く感覚や、チーム内での自分の立ち回り方の軸を培い、その力が現在に活かされています。今後はさまざまな仕事にチャレンジし、自分だけの強みを見つけていきたいです。



進路データ



進路データは、2022年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入

価値創造デザイン学類



基礎理論からつくる技術、そして価値を生み出す実践力まで幅広く養う

1. 感性情報デザイン演習 III
ユーザーを意識した体験のデザイン
デジタル技術を用いたインタラクティブ作品制作と学外での作品展示を通じて、デザインプロセスを統合的かつ実践的に学びます。

2. 生活環境デザイン演習 I~IV
実践で学ぶ、生活環境デザイン
生活環境に新たな価値をもたらすべく、建築空間の構想プロセスや表現技法などを学び、社会課題の解決に向けた実装に取り組みます。

3. 生活環境デザイン演習 III B
パラメトリックデザイン手法で椅子制作
宮城県登米市産の杉材を用いて、CNC加工機を駆使し、木製椅子を制作します。

一級建築士受験のための指定科目に認定
価値創造デザイン学類のカリキュラムが一級建築士の科目としての認定を受けました。これにより、所定の単位を修得すると、一級・二級・木造建築士を受験できます。



Classes | 授業紹介

価値創造デザイン学類

Creating “New Value & Design” for the Society.

情報・環境デザインを通して、新しい価値をどう生み出していか。

日々変化する社会環境を観察し、デザインが担う役割を学びながら、

多様な課題を解決へと導く論理的思考力と表現力を身につける。

デザインの学びは実践にあり

中国の古典『韓非子』に「三人言いて虎を成す」という言葉があります。街に虎が出たという信じがたい話も、三人が口を揃えると本当のこととして伝わってしまう、伝聞を鵜呑みにすることを戒める言葉です。玉石混淆の情報に溢れた現代社会にこそ強く響く言葉だと思います。物事の本質を見極める方法は今も昔も変わりません。それは自分自身の知恵を使って考え、体験を通して感じるこ

とに他なりません。現代では情報技術によって「知恵」は広く共有できるようになりました。一方で、肉体的な体験はまだ一人ひとりの実際の経験に根ざしています。デザインの学びには、この知恵を体験として感じること、つまり実践が非常に大切です。自分で考え、それをカタチにしていくなかで、物事の本質を見抜く能力となり、本当の自由を手にする礎になるのです。



価値創造デザイン学類 学類長
土岐謙次教授

Student Voice



根本涼伽さん
宮城県泉館山高校出身

充実した設備と学習環境が、自身の創造性を刺激する

価値創造デザイン学類は、制作設備環境がとても充実しています。様々なデザインツールを用いて多様な表現に挑戦できるため、自分の創造性や可能性に気付くことができます。また、創造性豊かな仲間が多く刺激を受けたり、先生との距離が近く相談しやすい環境も利点です。

制作設備・施設一覧

製図や模型製作が行える製図室／高性能 PC が整ったデザインラボ／レーザーカッターや 3D プリンタといったデジタルファブリケーション機器を備えたクリエイティブラボ／演習ではクリエイター向けソフト「Adobe Creative Cloud」や CAD が利用可能



須栗研究室

情報システムの設計と開発

現在、様々な情報システムが我々の生活を支えています。しかし、そのシステムを作る方法、そもそも作る前に設計する方法、設計と開発をプロジェクトで管理する方法は未だに発展途上です。「設計」を「デザイン」として捉え、多様なシステムを支える裏方の研究を行っています。



伊藤研究室

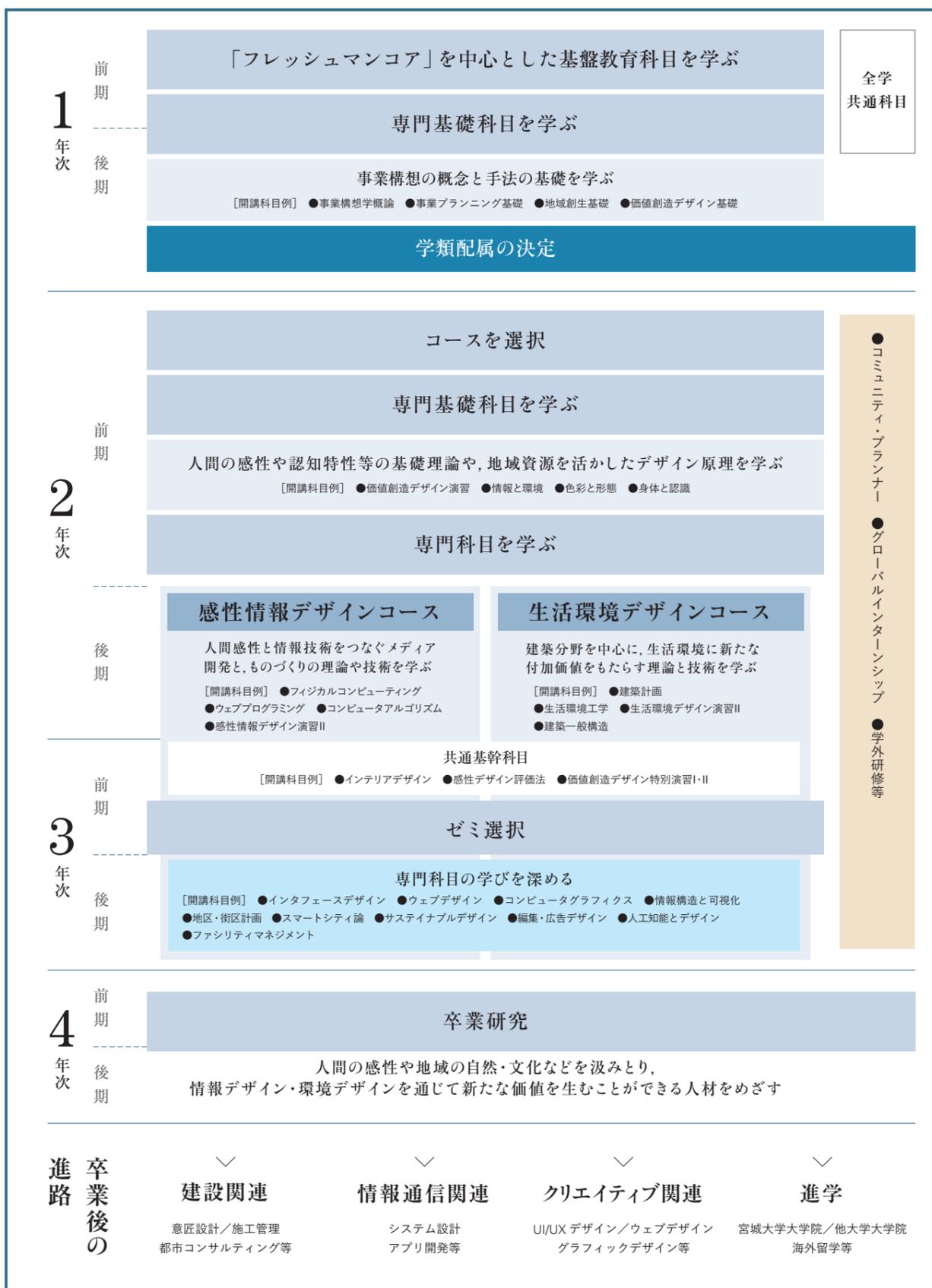
文化環境デザインの視点から価値を探求

室内建築（インテリアデザイン）やサイン計画、ブランディングやグラフィックデザイン等に取り組みながら、デザインの本質を探求しています。デザイン教育の方法論も重要な研究テーマです。学生達はポスターやリーフレット等を制作し、デザインによる地域活動の支援を行っています。

MYU labs | 研究室紹介

価値創造デザイン学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

大学で培ったデザインの力で 次世代の林業に挑戦

高知県佐川町地域おこし協力隊
伊藤啓太さん(2019年3月卒業)

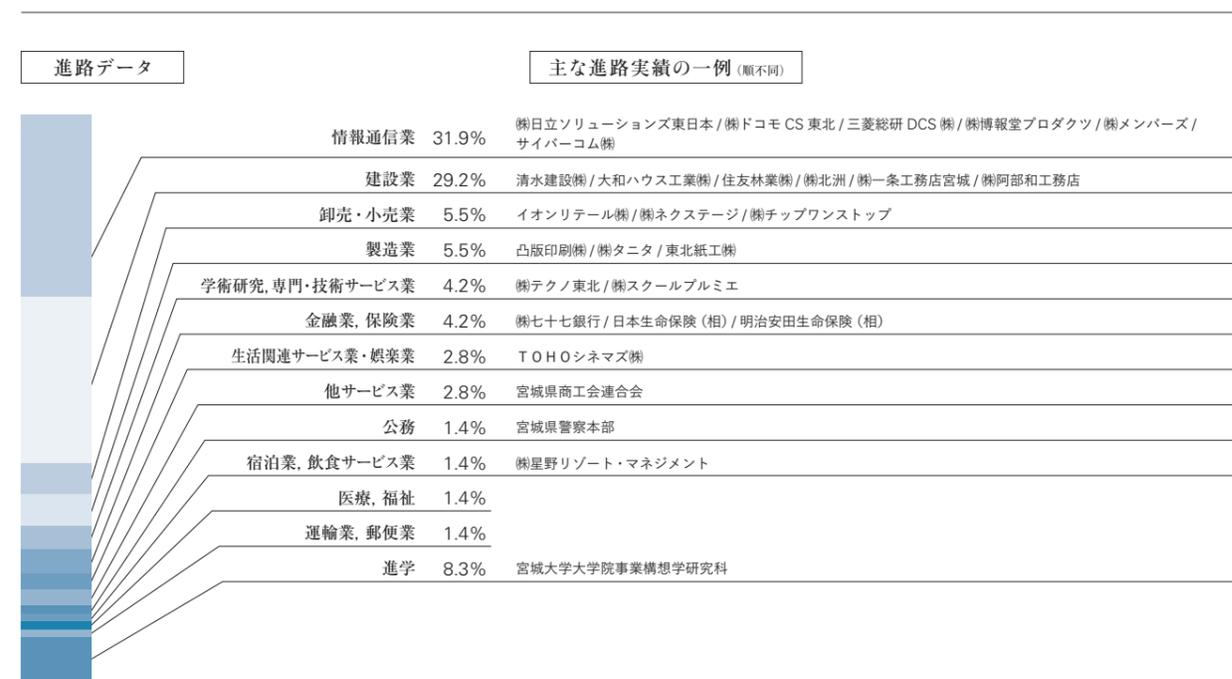
「自伐型林業」という小規模で自立分散的な林業を推進する佐川町で、規格にそぐわない価値の低い木に付加価値を付ける取り組みを行っています。林業に興味を持ったのは在学中、自分が素材として木を使っていたことから、林業が衰退の一途を辿っていると知ったのがきっかけでした。実際に山に入り木を伐っていると、人間が何世代にもわたり時間をかけて育てた自然を相手に仕事をしている、ということに誇りを感じます。宮城大学では、地域密着型のフィールドワークを通じて、デザインの力で地域の課題を解決し、価値を創造し、地域に還元するという一連を学びました。この春からは、小規模林業家として独立します。大学で得た学びを活かし、一次産業から始まるものづくりの一連のプロセスの構造をデザインしたいと考えています。



Graduates [卒業生の活躍]

価値創造デザイン学類

進路データ



進路データは、2022年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入

MYU SUPPORT FOR STUDENTS

学生みなさんが安心して大学生活を送ることができるよう、様々なサポート体制を用意しています。



適切かつ円滑な入学選抜を目指して。
アドミッションセンター

本センターは、入学選抜の基本方針の策定、入学選抜に関する調査研究および入試分析、入試に関する広報活動および相談、入学選抜の円滑な実施に関する総括を行い、本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的としています。



学術情報コンテンツの集積・発信から独自のソフト事業まで。
学術情報センター(図書館)

図書や論文、視聴覚資料など学術資料の収集・提供を通じて本学の教育・研究・学修支援に取り組んでいます。学内の研究成果等を集積してデジタルアーカイブの構築も進め、学外に向けた情報発信にも力を入れています。



あらゆる面から学生を親身にサポート。
スチューデントサービスセンター

学生みなさんの大学生活、学修についての支援はもちろん、サークル活動の支援やアルバイトなど大学外についての支援も行っています。大学生として一人ひとりが自主的・積極的に学生生活を送っていくことを支援するセンターです。



学生に寄り添ったキャリア形成支援。
キャリア・インターンシップセンター

「キャリア教育支援プログラム」、「インターンシッププログラム」、「専門の職員による進路相談及び就職支援」を柱に、1年次より4年間を通して学生のキャリア形成に向けた活動をサポートしています。



ココロとカラダの両面をサポート。
健康支援室

学生が安心して充実した大学生活を送ることができるように、健康面からサポートします。体と心の健康についての疑問や悩みなどがありましたら、一人で抱え込まずに、健康支援室(保健室・学生相談室)へ気軽に相談にいらしてください。



あらゆるステークホルダーと共創し地域の発展に貢献
研究推進・地域未来共創センター

宮城大学の横断的な教育・研究の成果や知的財産を活用し、東北・宮城の様々な地域の資源や人材を新たな発想と視座から連携し、新たな研究開発や地域未来共創プロジェクトを推進し、持続可能な地域社会を実現していきます。



食産業学群

生物生産学類 入学定員 62名
フードマネジメント学類 入学定員 63名

入学者に求める能力

- (1) 食及び食を取り巻く環境に興味を持ち、自然科学の基礎知識を身につけている人
- (2) 論理的に考える力を修得し、食の安全・安心、環境との調和などの課題解決に取り組みたい人
- (3) 地域社会の一員として、さらには世界的な観点から食産業を考え、その発展に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

食産業学群では、食につながる生物生産とその供給から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い専門的知識と技術を持ち、食産業全体を理解し、地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材の育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 食品衛生監視員
所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に取得可能
- 食品衛生管理者
所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に取得可能
- HACCP管理者
所定科目の単位取得により取得可能
- 食の6次産業化プロデューサー
所定科目の単位取得により、「わかる(知識)」のレベル2として認定

「食」について調べ、考え、行動できる実力と自信を身に付ける

食産業学群の4年間で身につけていただきたいのは、「食」のさまざまな事柄について「調べ、考える力」です。これは行動の原動力です。私たちの「食」を支えているのは、原料である農畜水産物などの生物の生産、それを加工して流通させ、安全で健康的な消費を可能にする複雑なシステムです。このシステムが食産業であり、産業として持続的に機能させるには経済の仕組みや経営、食文化なども大きくかかわってきます。このシステムを発展、進化させてゆく食産業学では

自然科学分野や工学などの理系学問と社会科学などの文系学問の両方から総合的に取り組まなくてはなりません。食産業学の大きな特徴はここにあります。今後、食産業へのIoTや人工知能の組み込みがさらに加速しますが、人間にしかできない「調べ、考える力」を研究を通して得た最先端の知識を基にした授業や実験、実習を通して学びます。並行して行われる充実したキャリア教育によって卒業時には食産業で活躍する社会人としての実力と自信がつくと確信します。



食産業学群 学群長
井上達志教授

生物生産学類

入学者に求める能力

生物資源開発や生産環境技術、経営を通して、持続的な食料生産とその供給に強い関心を持ち、食産業の幅広い専門的知識と技術を身につけ、社会に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

地域の生物資源の高付加価値化や生産方法に関する知識・技術を養い、科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を育成します。

フードマネジメント学類

入学者に求める能力

食の製造・加工から流通・消費に至る食産業のプロセスについて、サイエンスとビジネスの両面において知識や技術を身につけ、社会に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

フードシステムの構築に必要なサイエンスとビジネスの両面の知識・技術を養い、科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を育成します。

生物生産学類



Committed to Bringing Innovations to the Farms of the Future.

今，“食”を支える農業は変革の時。バイオサイエンス、植物・動物・水圏生物の生産科学からIoTやAIを活用する生産環境情報、生産ビジネスまで、食の生産を網羅する多様な分野を広く、深く学び、生産のイノベーションで食の未来を創造する。

分野横断的教育研究で挑む！未来の食料生産

世界的な人口増加に伴う需要の増大、地球規模の気候変動など、食料生産は多くの問題に直面しています。また国内では、大規模化、自動化など、生産方式が大きく変化しつつあります。2022年4月に誕生した“生物生産学類”では、6つの履修モデルを設定し、社会の変化に対応できる柔軟なカリキュラムを展開しています。最先端の基礎科学

や情報技術、ビジネス分野の新しい科目をはじめ、食の生産に関する多様な科目を配置していますので、将来の進路に合わせて科目を選択して履修することで、生物生産に関する幅広い知識や技術を身につけることができます。生物生産学類で、持続可能な食料生産を考え、食の未来を切り拓いていきましょう。



生物生産学類 学類長
中村茂雄教授

座学に加え、実験・実習を通して体験することで、学びをより深める



施設園芸学

進化する施設栽培

施設設備の高度化によって進化し続ける園芸作物の栽培技術について学びます。



動物性食材生産実験実習

肉、乳、卵の味と安全性を科学する

肉やミルク、卵の生産ではその品質も重要です。品質の科学的な評価法も学びます。



水産資源生態学

水産資源の生態や管理方法を学ぶ

水産資源の持続的利用のためにはどうすべきか、生物の生態から管理方法までを学びます。



生物資源経済学

生物資源の持続可能性を探究する

食料生産に必要な水や農地、漁業資源等の利用と保全について経済学を使って考えます。



植物機能開発実験実習

ゲノム情報に基づいた品種改良を学ぶ

遺伝子についての基礎知識と共に、DNAの塩基配列に基づいた品種改良技術を学びます。



生産環境情報学

生産環境の現状とその情報化を学ぶ

生産環境の具体例や光合成環境を解説し、その現状や情報化・新技術活用事例を学びます。

Student Voice



鈴木美紀さん
宮城県仙台二華高校出身

座学と実践から、「これからの食」について学ぶ

座学だけでなく、農場実習などのフィールドワークを通し、「これからの食」について幅広い視点で実践的な学びを深められます。私が所属する研究室では、産業動物について最新かつ先進的なバイオサイエンス技術を用いて学び、研究できます。今後は大学院に進み、さらに発展した研究に取り組みます。

取得できる資格

食品衛生監視員
食品衛生管理者
HACCP管理者
食の6次産業化プロデューサー

所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に上記の資格が取得できる予定です。



動物免疫学研究室

免疫の不思議を解き明かそう！

感染防御の主役、免疫系。代謝や生殖など、体の機能調節にも非常に重要な働きをしています。でもそのメカニズムには、まだわかっていないことがたくさんあります。本研究室では、畜産動物からイヌ・ネコまでいろいろな動物を対象に、健康に貢献することをめざして免疫の研究を進めています。



環境生体工学研究室

状態を可視化し、生産環境をデザインする

野菜の生育環境で影響を及ぼす様々な環境要素は、空気の流れや時間と共に変化します。理想的な環境を維持するために温室や植物工場では制御技術が利用されています。本研究室では研究を通じて制御結果を確認し評価する手段や、結果を理想に近づけるための制御方法を提案します。

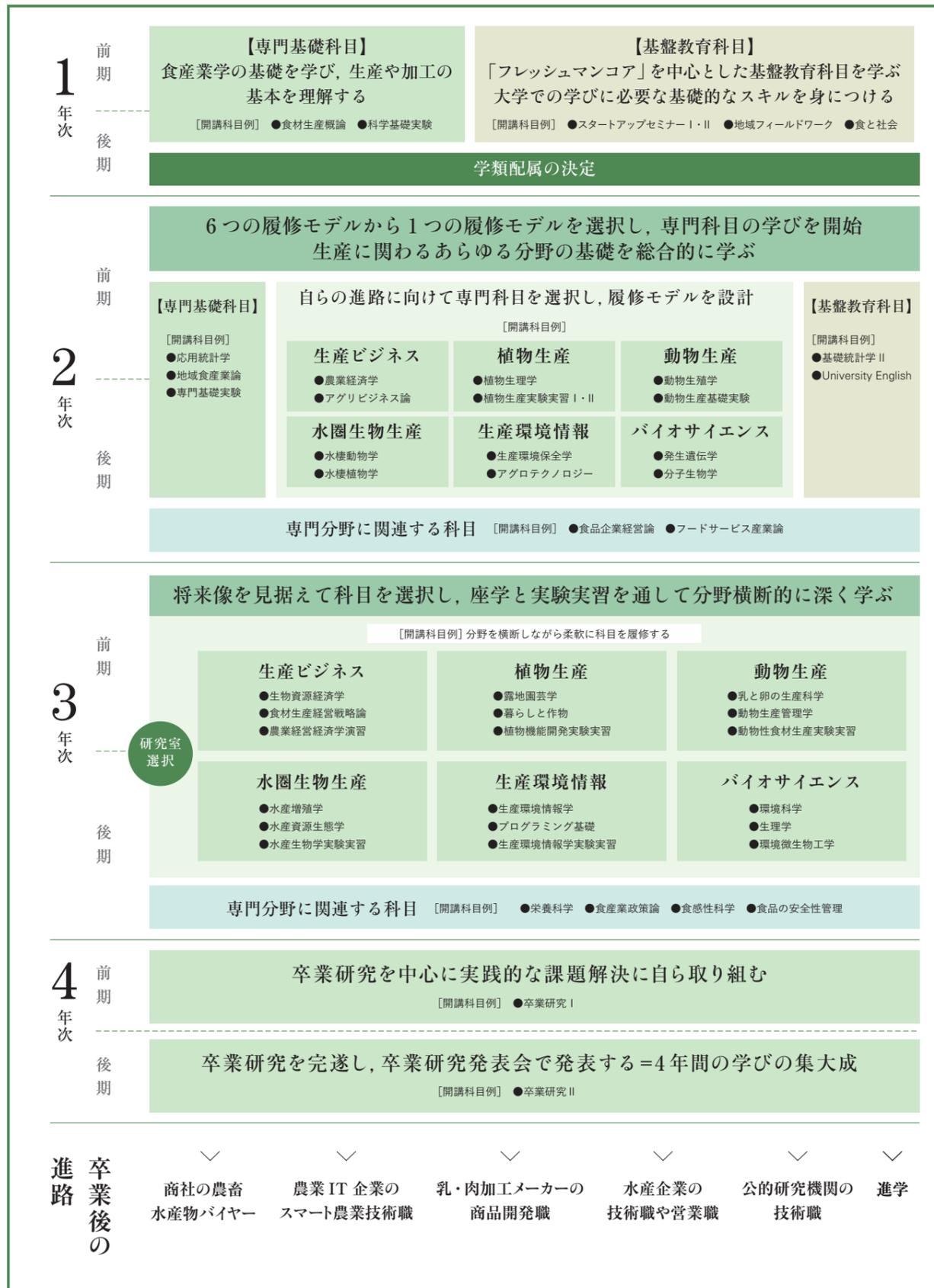
Classes [授業紹介]

生物生産学類

MYU labs [研究室紹介]

生物生産学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

研究で得た知識を活かし 食品事業の認知拡大に貢献

亀田製菓株式会社 食品事業部 販売チーム
清野翔斗さん(2020年3月卒業)

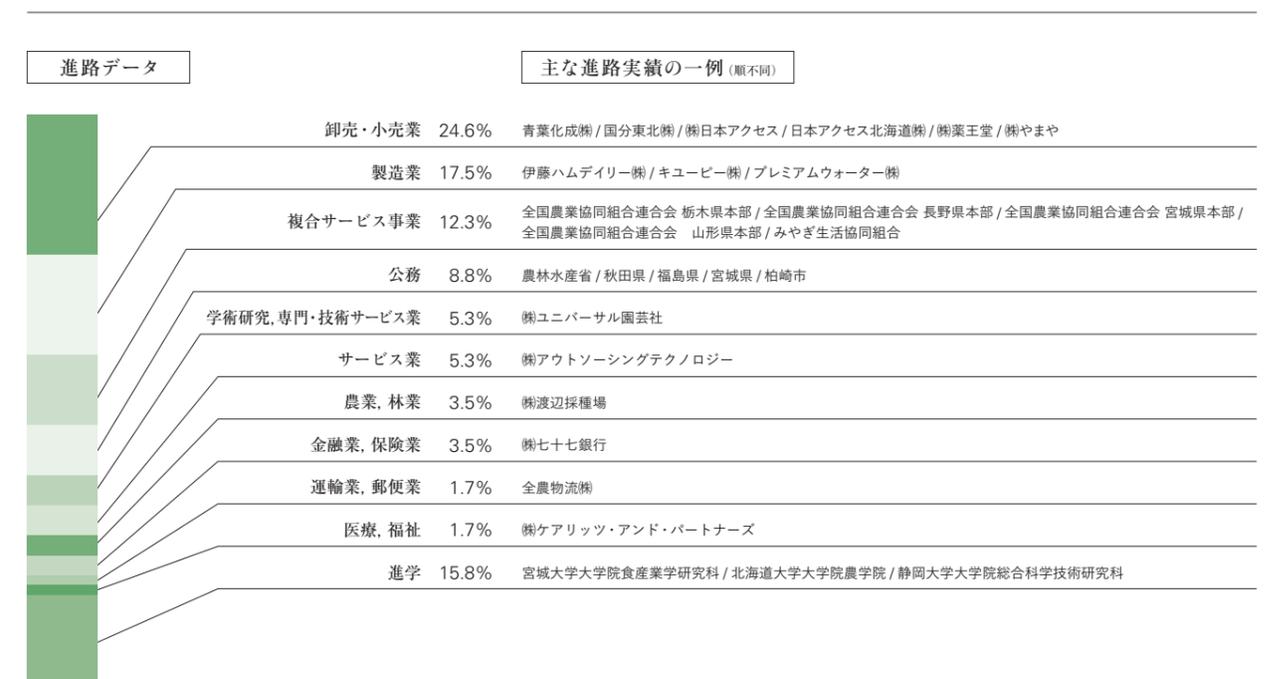
自社の次世代を担う商品である植物性乳酸菌と大豆ミートをメーカーに販売する営業を担当しています。クライアントに提案を重ねる中で、悩みや課題が解決し採用に結びついた時や、実際に製品が発売された時にとてもやりがいを感じます。高校時代から食品メーカーに就職することを目標にしていたので、農場や加工棟で、体験を通して学ぶことができる宮城大学は自分にぴったりでした。植物や動物に実際に触れながらの実習を毎週楽しみにしていたのを覚えています。在学中に取得した資格をはじめ、とくに3年から4年次に研究した「免疫」に関しては、現在扱っている植物性乳酸菌と深い関係があり、大学で得た知識が存分に活かされています。今後は、新規事業の一員として実績数を伸ばし、消費者の皆様へ自社の食品事業をより広く認知していただけるよう努めていきたいです。



Graduates [卒業生の活躍]

生物生産学類

進路データ



進路データは、2022年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入

フードマネジメント学類



Food Research and Studies Will Take You into the Body and around the World.

食は身体を作るだけでなく、時として世界を動かす。

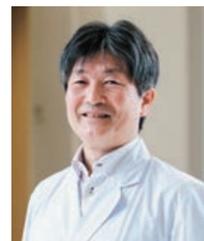
最先端のサイエンスとビジネスの視点から

食に関わる問題を徹底的に追及する。

栄養から社会まで、「食」のすべてを語るスペシャリストに

「食との関係」と聞いて何を思い浮かべますか？我々が口にする食材は世界中で生まれ、運ばれ、調理され、生きる糧となります。一口に食と言ってもとても広い分野が関わります。フードマネジメント学類では、「文理融合」を掲げ、食に関わる科学技術から社会現象に至るまで、広く学ぶことができます。1年次では基礎を、学年が上がるに伴い「食品製造・加工」「食品開発」「食の安全・安

心」「食品流通・サービス」の4つの履修モデルに基づき専門性の高い科目を学びますが、モデルを超えた履修も可能です。4年次には集大成としての卒業研究に取り組み、学類全員参加の発表会では活発な質疑応答が行なわれます。また授業や課外活動の一環として県内外の企業と清酒やお土産品などの商品開発も行っており、実践的な学びを得ることもできます。



フードマネジメント学類 学類長
毛利哲教授

マーケットのわかる技術者、技術のわかるマーケットターを育てる

1. 食品企業経営論

「経営」とは具体的に何をするのか？
数字・仕組み・スキル・機能…「経営」に必要な具体的な視点と基礎を徹底的に学びます。

2. 食品マーケティング論

マーケティング視点で食を捉える
マーケティング論の主要な概念を修得し、食産業の課題にどう適用できるのかを考え、自ら活用できるようになることを目指します。

3. 食材生産・加工実習II

食品の「加工」を体験して学ぶ
この実習では食材を加工して様々な食品を作ります。ポイントは、プロセスを意識し、そこで起こる様々な変化を理解していくことです。

4. 食品貯蔵・流通技術論

食品保存の温故知新を学ぶ
食品の持つ機能（栄養・健康、おいしさ、安全性）を保つための基盤技術と、それらに応用した先端テクノロジーについて学びます。



池田匠さん
宮城県仙台向山高校出身

Student Voice

「文理融合」の学びを通じて、自身の興味を深める

フードマネジメント学類では、文系・理系問わず幅広い分野から「食に関する知識」を学ぶことができます。専攻学問を決め切れていない方でも、講義を通して自分の興味を見極め、深めることができます。就職の際に学びの証となる「食品衛生監視員」等の資格が取得できることも魅力です。

取得できる資格

食品衛生監視員
食品衛生管理者
HACCP管理者
食の6次産業化プロデューサー

所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に上記の資格が取得できる予定です。



食文化史研究室

文化と歴史の視点から、これからの食産業のあり方を考える

食の文化や歴史の研究を行っています。実際に現地に足を運んで調べる「フィールドワーク」と、過去の人がとが記録した「歴史資料」を手がかりに、教科書では語られてこなかった「食」の文化と歴史を発見し、私たちが生きる現代とその先の未来の食産業のあり方を再考します。



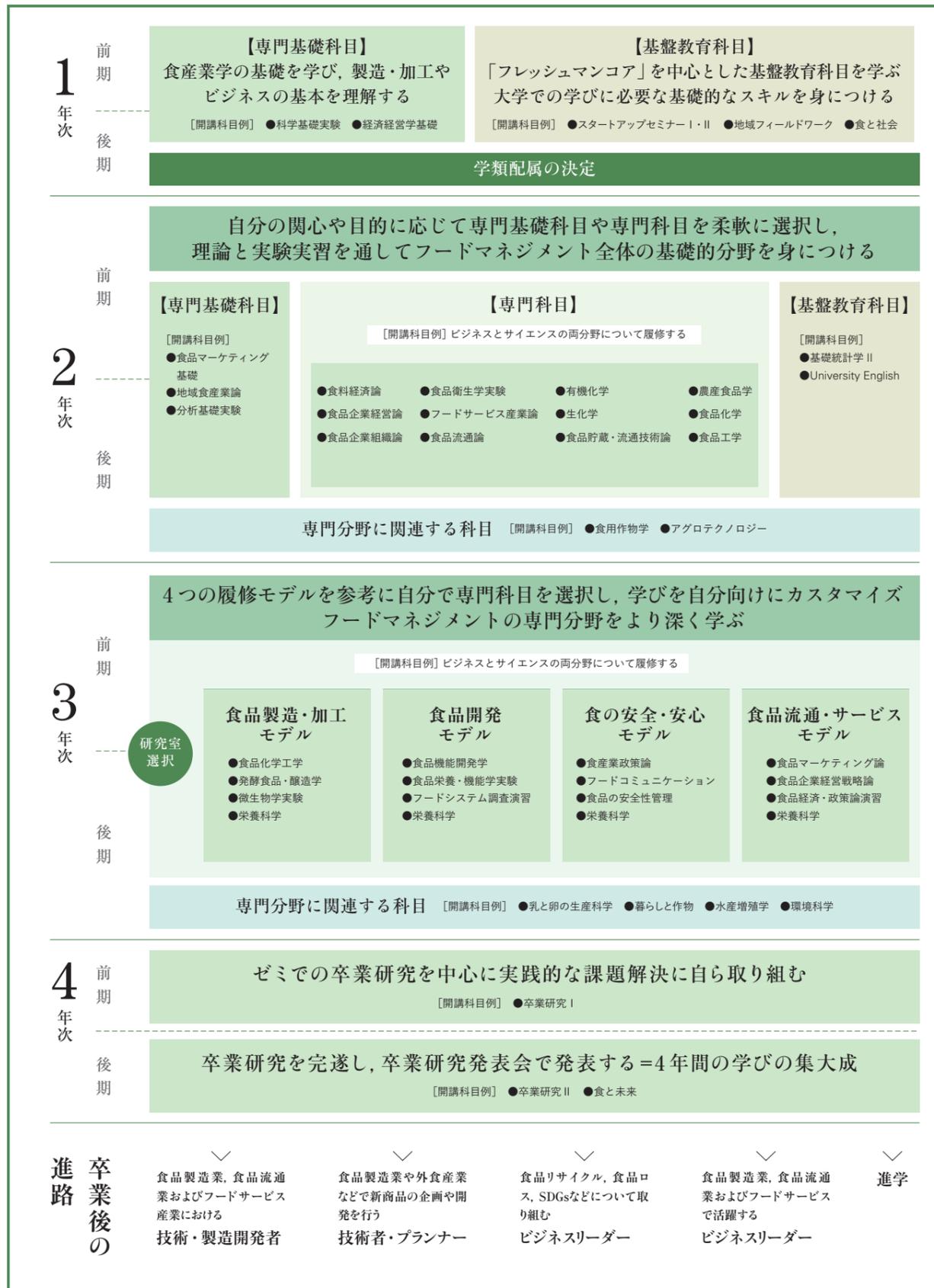
発酵化学研究室

古くて新しい「発酵・醸造学」

微生物の発酵作用により味噌や醤油、お酒など様々な発酵食品が造られ・食されています。研究室では、先端科学や発酵微生物の遺伝的解析手法により分析や解析をしています。また、卒業研究から「いちごワイン」や「豆乳チーズ」などの商品開発もしており、「発酵・醸造学」は、古くて新しい学問です。

フードマネジメント学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



国際交流・海外ネットワーク

PUSH, PULL, and GROW.

国際交流は、①学生を海外の多文化空間に (PUSH), ②留学生・多文化空間を宮城大学に (PULL), そして、③海外だけでなく日本のキャンパスでも多文化理解力を醸成する (GROW), これらをコンセプトに学生が教職員とともに「ワクワク感」をもってグローバル・ステージで活躍できるよう国際交流を進めています。このように、宮城大学では、協定校をはじめとした海外留学、海外からの留学生の受け入れ、キャンパス内に設置したグローバルコモンズでの多文化交流などを通して、1年中「グローバル」を体験することができます。

宮城大学の海外ネットワーク 2022年3月時点



国際交流・海外学修プログラム



宮城大学海外交換留学支援プログラム

アーカンソー大学フォートスミス校 (米国) やトゥルク応用科学大学 (フィンランド) など海外協定校において、1学期もしくは1年程度、原則として本学での専攻を生かした教育プログラムを履修することができます。英語によるコミュニケーションスキルの向上のみならず、現地の文化や習慣、専攻分野での知見を深めることにより、将来グローバル・ステージで活躍できる有能な人的資源として必要な能力を獲得することを目指します。



リアル・アジア

マレーシア、オーストラリア等で約2週間、協定校大学などにおいて、英語・文化研修を実施するほか、現地企業/組織訪問を行います。単なる英会話ではなく、英語を通して現地の社会経済状況を学修し、PBL (問題解決型学習) の手法も活用しながら実践的なプログラムを構築しています。この短期研修を体験することで、社会でも通用する積極性や協調性、グローバルコミュニケーション能力などを養います。

大学院 Graduate School

学びをさらに深め、高度な研究能力を養う充実した環境があります。

	看護学研究科	事業構想学研究科	食産業学研究科
博士前期課程	基盤看護学分野 成熟期看護学分野 次世代育成看護学分野 広域看護学分野	ビジネスデザイン領域 ソーシャルデザイン領域 空間デザイン領域 情報デザイン領域	食品イノベーション領域 食品ビジネスマネジメント分野/食品技術開発分野 農・環境イノベーション領域 生物生産分野/生産環境分野
博士後期課程	生涯健康支援看護学分野	産業・事業システム領域 地域・社会システム領域 <small>※ 令和5年度より領域名変更予定</small>	食品研究領域 農・環境研究領域

学生数

学群	学類	1年	2年	3年	4年	合計	大学院	課程	1年	2年	3年	合計
看護学群	看護学類	103	101	106	91	401	看護学研究科	博士前期課程	3	17	-	20
								博士後期課程	1	1	5	7
事業構想学群	学類未配属者	185				185	事業構想学研究科	博士前期課程	14	11	-	25
	事業プランニング学類	8	67	65	67	207		博士後期課程	2	3	3	8
	地域創生学類	12	63	63	64	202						
食産業学群	学類未配属者	117				117	食産業学研究科	博士前期課程	12	9	-	21
	食資源開発学類	10	70	64	60	204		博士後期課程	3	1	7	11
	フードマネジメント学類	13	65	70	65	213						
						合計						92

※2021年度学校基本調査から学群生・大学院生を抜粋

入学金・学費・奨学金

学費・入学時における学生諸経費 (2021年度実績)

入学金	県内出身者	282,000円
	県外出身者	564,000円
入学時 学生諸経費	看護学群	65,315円
	事業構想学群	44,660円
	食産業学群	44,660円
	※研究科(保険料のみ)	2,430円~13,500円
授業料	年額	535,800円 (前期・後期, 半額ずつ納付)
	納付時期※	[前期] 4月30日 (2021年度は8月31日) [後期] 10月31日 (2021年度は12月24日)

授業料の減免等制度 (2021年度時点)

減免 (本学独自制度)	一定基準以上の成績及び経済的要件を満たす場合、申請により、全額又は半額免除される場合があります。
分割納付	経済的理由で授業料の一括納付が困難な場合、申請により、分割納付を認める場合があります。
納付猶予	経済的理由で授業料を指定納期までに納付することが困難な場合、申請により、納付猶予を認める場合があります。

宮城大学は、高等教育の修学支援新制度の対象校です。
【高等教育の修学支援新制度: <https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>】

奨学金制度 (独立行政法人日本学生支援機構奨学金)

独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金

高校等での予約採用以外は、毎年4月に説明会を行い、奨学生を募集します。貸与金額等の詳細は、日本学生支援機構Webサイトをご確認ください。

日本学生支援機構Webサイト
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

※貸与期間: 採用年度から標準修業年まで。

その他の奨学金 各種団体等の奨学金は、随時学内掲示板等でお知らせします。

大和キャンパス

大和キャンパスは、自然と共生し、地域に開かれた大学としてデザインされました。人が自然とふれあう泉パークタウンと、県内有数の工業エリアである大和リサーチパークに隣接しています。近隣には、県立図書館や産業技術総合センターなどの施設もあり、研究に最適な環境です。



①本部棟 ②ブリッジ棟 ③エントランス広場 ④交流棟 ⑤体育館 ⑥サークル室棟 ⑦材料実験棟 ⑧グラウンド ⑨北側駐車場 ⑩デザイン研究棟

太白キャンパス

太白キャンパスは、太白山麓の住宅街に位置し、学内農場である旗立農場を擁する自然豊かなキャンパスです。近隣の附属坪沼農場を含めた個性豊かな教育施設群の中で、様々な視点から「食」を学ぶことができます。



①体育館 ②テニスコート ③レストラン棟 ④南サークル棟 ⑤北サークル棟 ⑥動物代謝棟 ⑦動物実験棟 ⑧駐車場 ⑨管理棟 ⑩学生会館メモリアルホール40
⑪多目的ホール ⑫講義棟 ⑬ガラス温室 ⑭運動場 ⑮実験棟 ⑯南研究棟 ⑰北研究棟 ⑱食品加工棟 ⑲水利実験棟 ⑳リサイクル棟 ㉑材料実験棟 ㉒水産実験棟



ONLINE OPEN CAMPUS

宮城大学を「知る」「学ぶ」「感じる」

MYU ONLINE OPEN CAMPUS



各学群・学類の紹介、模擬講義など豊富なコンテンツで宮城大学を体験することができます。追加コンテンツも順次公開していきます。

大和キャンパス

大学本部／看護学群／事業構想学群
大学院看護学研究科／大学院事業構想学研究科

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
宮城大学事務局(大学全般) Tel 022-377-8205 (代表) Fax 022-377-8282

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約15分、「泉中央駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「泉中央駅」バスプール3番又は6番から、宮城交通バス「泉パークタウン」行き(宮城大学経由)で約30分～35分、「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

「仙台駅前」バスプール2番から、宮城交通バス「宮城大学」行き約50分、「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

太白キャンパス

食産業学群／大学院食産業学研究科

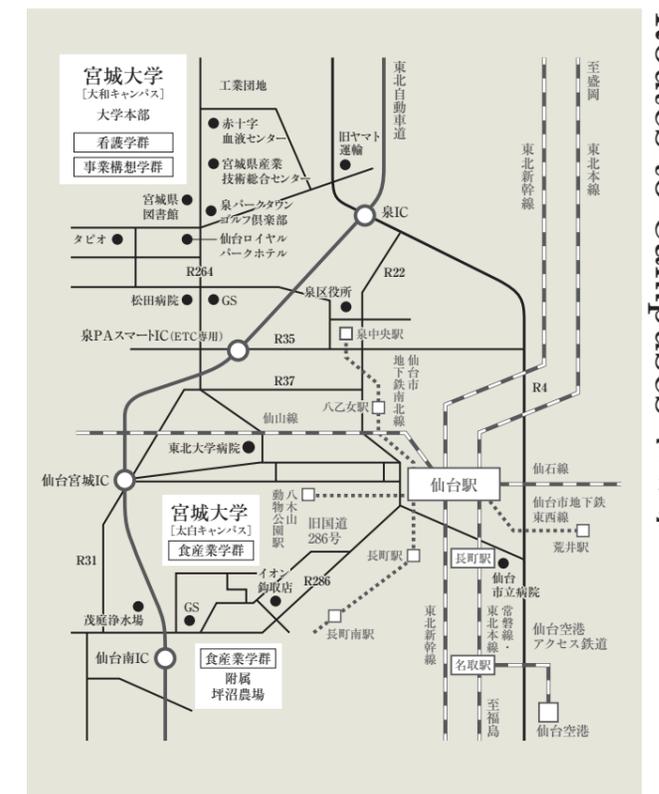
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立二丁目2番1号
宮城大学事務局(太白事務局) Tel 022-245-2211 (代表) Fax 022-245-1534

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約10分、「長町南駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「長町南駅・太白区役所前」バスプール4番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約20分、「宮城大学太白キャンパス前」下車

「仙台駅前」バスプール7番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約40分、「宮城大学太白キャンパス前」下車

宮城大学 大学案内 2023
企画・編集: 宮城大学 広報ワーキンググループ/デザイン: 株式会社フロット
撮影: 渡辺 龍・布施果歩 (Strobelight), 佐藤早苗/印刷: 田宮印刷株式会社



Routes to Campuses 「アクセス」



宮城大学大学案内「MYU GUIDE」を含めた、「宮城大学広報ツールのトータルデザイン」は、2021年度グッドデザイン賞を受賞しました。





宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY